

2023年度

シラバス 実務

介護福祉科



1年次シラバス

- 01 人間の尊厳と自立
- 02 人間関係とコミュニケーション
- 03 社会の理解 I
- 04 社会の理解 II
- 05 ICT- I
- 06 ICT- II
- 07 介護福祉論 I
- 08 介護福祉論 II
- 09 栄養調理
- 10 ケア・コミュニケーション技術 I
- 11 ケア・コミュニケーション技術 II
- 12 家庭生活支援技術
- 13 生活支援のレクリエーション
- 14 生活支援技 I
- 15 生活支援技術 II
- 16 生活支援技術 III
- 17 生活支援技術 IV
- 18 介護過程 I
- 19 介護過程 II
- 20 介護総合演習 I
- 21 介護総合演習 II
- 22 介護総合演習 III
- 23 介護実習 I
- 24 介護実習 II 'IA1
- 25 ころとからだのしくみ I
- 26 ころとからだのしくみ II
- 27 認知症の理解 I
- 28 障害の理解 I
- 29 医療的ケア I
- 30 言語コミュニケーション I (英語)
- 31 言語コミュニケーション I (日本語)
- 32 言語コミュニケーション II (英語)
- 33 言語コミュニケーション II (日本語)
- 34 放送大学 I
- 35 放送大学 II
- 36 日本語リテラシー I
- 37 日本語リテラシー II

2年次シラバス

- 01 介護福祉とチームマネジメント
- 02 ホスピタリティ
- 03 地域福祉
- 04 家政学(住居)
- 05 家政学(被服)
- 06 生活支援技術 V
- 07 生活支援技術 VI
- 08 生活支援技術 VII
- 09 生活支援技術 VIII
- 10 介護過程 III
- 11 介護福祉研究 I
- 12 介護福祉研究 II
- 13 介護総合演習 IV
- 14 介護実習 III
- 15 心理学
- 16 リハビリテーション論
- 17 発達と老化の理解 I
- 18 発達と老化の理解 II
- 19 認知症の理解 II
- 20 障害の理解 II
- 21 医療的ケア II
- 22 医療的ケア III
- 23 国家試験対策
- 24 放送大学 III
- 25 放送大学 IV
- 26 日本語リテラシー III
- 27 日本語リテラシー IV

資格支援科目

- 01 パーソナルファイナンス

2023年度
1年生用シラバス

帯広コア専門学校

科目名	人間の尊厳と自立		担当講師	久保 晃利	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	資料 配布				
一般目標	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力を身につけることができる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ 提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	行動目標		
1	久保 晃利	オリエンテーション	この科目を学ぶ意義、福祉とは		
2	久保 晃利	人間の尊厳と利用者主体①	専門職の価値を学ぶ		
3	久保 晃利	人間の尊厳と利用者主体②	人間の尊厳、平等、個人の尊重、人間の多面的理解を学ぶ		
4	久保 晃利	人間の尊厳と利用者主体③	利用者主体の考え方、利用者主体の実現を学ぶ		
5	久保 晃利	人権・福祉の理念①	人権思想の潮流とその具現化、人権や尊厳に関する日本の諸規定について学ぶ		
6	久保 晃利	人権・福祉の理念②	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷について学ぶ①		
7	久保 晃利	人権・福祉の理念③	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷について学ぶ②		
8	久保 晃利	人権・福祉の理念④	動画 人権について考える		
9	久保 晃利	人権・福祉の理念⑤	人権尊重と権利擁護について学ぶ		
10	久保 晃利	人権・福祉の理念⑥	動画 ハンセン病 優性思想について考える		
11	久保 晃利	自立のあり方①	自立の概念と多様性、自立とはどのような状態なのかを学ぶ		
12	久保 晃利	自立のあり方②	介護を必要とする人々の自立と自立支援、介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性について学ぶ		
13	久保 晃利	尊厳の保持と自立	動画視聴 人間の尊厳を考える①		
14	久保 晃利	尊厳の保持と自立	動画視聴 人間の尊厳を考える②		
15	久保 晃利	尊厳の保持と自立	演習 尊厳の保持、自立を考える		

科目名	人間関係とコミュニケーション		担当講師	石川 京子	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版」中央法規出版				
参考書	資料 配布				
一般目標	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を学ぶ。対象者の特性に応じたコミュニケーションや家族・チームに対するコミュニケーションスキルが身につく				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	石川 京子	コミュニケーションとは	コミュニケーションの意義・目的・バイステックの7原則
2	石川 京子	人間関係と心理	自己覚知、他者理解、ラポール
3	石川 京子	コミュニケーション技法の基礎 ①	受容、傾聴、共感
4	石川 京子	コミュニケーション技法の基礎 ②	受容、傾聴、共感(演習)
5	石川 京子	コミュニケーション技法の基礎 ③	言語・非言語・準言語コミュニケーション
6	石川 京子	目的別のコミュニケーション技術	動機付け、リフレーミング(演習)
7	石川 京子	対象者の特性に応じたコミュニケーション①	コミュニケーション障害とは、支援の基本
8	石川 京子	対象者の特性に応じたコミュニケーション②	視覚、聴覚、構音障害
9	石川 京子	対象者の特性に応じたコミュニケーション③	失語症、うつ病、統合失調症
10	石川 京子	対象者の特性に応じたコミュニケーション④	高次脳機能障害、知的障害、発達障害
11	石川 京子	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤	重度心身障害者、認知症
12	石川 京子	家族とのコミュニケーション①	家族との関係づくり、助言、指導、調整
13	石川 京子	家族とのコミュニケーション②	家族との関係づくり、助言、指導、調整
14	石川 京子	介護におけるチームのコミュニケーション①	チーム・多職種間のコミュニケーションの意義・目的
15	石川 京子	介護におけるチームのコミュニケーション①	報告・連絡・相談、介護記録、会議

科目名	社会の理解 I		担当講師	久保 晃利	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	家族、社会構造の変化、地域共生社会、わが国の社会保障制度の全体像を理解する。介護保険制度のしくみを理解し、説明できる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ 提出物 ・ その他 ()				
	担当者	講義項目	内容		
1	久保 晃利	社会と生活のしくみ①	ジェノグラム、エコマップの描き方を学ぶ		
2	久保 晃利	社会と生活のしくみ②	生活の概念、家庭生活の機能、ライフスタイルの変化、少子高齢化と健康寿命について学ぶ		
3	久保 晃利	社会と生活のしくみ③	家族の機能と役割、社会・組織の役割、地域・地域社会について学ぶ		
4	久保 晃利	社会と生活のしくみ④	演習 家族の機能と役割、社会的環境の変化と生活歴について考える		
5	久保 晃利	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	地域福祉の発展について学ぶ		
6	久保 晃利	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	地域共生社会、地域包括ケアについて学ぶ		
7	久保 晃利	高齢者福祉の動向	高齢者保健福祉に関する歴史、高齢者の保健福祉、高齢者の健康保持と社会参加について学ぶ		
8	久保 晃利	高齢者保健福祉に関する法体系	高齢社会対策基本法、老人福祉法、高齢者の医療に関する法律について学ぶ		
9	久保 晃利	介護保険制度①	創設の背景と目的について学ぶ		
10	久保 晃利	介護保険制度②	介護保険制度のしくみを学ぶ①		
11	久保 晃利	介護保険制度③	介護保険制度のしくみを学ぶ②		
12	久保 晃利	介護保険制度④	介護保険制度のしくみを学ぶ③		
13	久保 晃利	介護保険制度⑤	演習 介護保険制度の動向を学ぶ		
14	久保 晃利	介護保険制度⑥	演習 自分の住んでいる地域の高齢者ケアの課題と方策を学ぶ①		
15	久保 晃利	介護保険制度⑦	演習 自分の住んでいる地域の高齢者ケアの課題と方策を学ぶ②		

科目名	社会の理解Ⅱ		担当講師	久保 晃利	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	障害者総合支援制度の全体像及び内容を理解し説明できる。介護保険制度のしくみを理解し説明できる。人権を護る諸制度の概要を理解する。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ 提出物 ・ その他 ()				
	担当者	講義項目	内容		
1	久保 晃利	社会保障制度①	社会保障の基本的な考え方を学ぶ		
2	久保 晃利	社会保障制度②	日本の社会保障制度の発達について学ぶ		
3	久保 晃利	社会保障制度③	日本の社会保障制度のしくみについて学ぶ		
4	久保 晃利	社会保障制度④	現代社会と社会保障制度について学ぶ 演習 社会保障の意義と機能について学ぶ		
5	久保 晃利	障害者総合支援制度①	障害者保健福祉の動向について学ぶ		
6	久保 晃利	障害者総合支援制度②	障害者保健福祉に関する法体系について学ぶ		
7	久保 晃利	障害者総合支援制度③	障害者総合支援制度のしくみを学ぶ①		
8	久保 晃利	障害者総合支援制度④	障害者総合支援制度のしくみを学ぶ②		
9	久保 晃利	障害者総合支援制度⑤	演習 優性思想を考える		
10	久保 晃利	介護実践に関連する諸制度①	各虐待防止法・成年後見制度について学ぶ		
11	久保 晃利	介護実践に関連する諸制度②	日常生活自立支援事業・個人情報保護法等について学ぶ		
12	久保 晃利	介護実践に関連する諸制度③	演習 介護サービス情報の公表制度と福祉サービス第三者評価事業について学ぶ		
13	久保 晃利	介護実践に関連する諸制度④	保健医療に関する制度・施策、貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策について学ぶ		
14	久保 晃利	介護実践に関連する諸制度⑤	地域生活を支援する制度・施策について学ぶ		
15	久保 晃利	介護実践に関連する諸制度⑥	演習 自分の住んでいる市町村の行政計画についてまとめる		

科目名	ICT- I		担当講師	村川貴康	
実務経験分類	実務	実務内容	情報処理業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	なし 資料配布				
参考書					
一般目標	インターネットを安全に使うための情報セキュリティの基礎知識と基本的な操作方法、Googleを利用したクラウドの使い方を習得。介護現場におけるパソコン等の利活用方法、文書作成技術を習得。PowerPoint操作を学び、プレゼンテーションの際の視覚資料の作成方法の習得とプレゼンテーションスキルの向上。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○実技試験 ・ ○平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	行動目標		
1	村川 貴康	パソコン操作の基本 WINDOWSとWORD	PCの起動と終了、OSの画面構成、マウス操作、フォルダとファイル、文書作成ソフト(Word)についての理解。		
2	村川 貴康	情報セキュリティ	インターネット、電子メールの仕組み、SNSの仕組み 情報発信の際の注意		
3	村川 貴康	PowerPointの操作①	画面構成、スライドの作成、文字入力、保存・読み込み、 文字装飾、図形・画像の活用方法の理解・習得。		
4	村川 貴康	PowerPointの操作②	テーマの変更、アニメーション効果、スライドショー、 表の作成、グラフの作成、ワードアート。		
5	村川 貴康	PowerPointの操作③	使用アニメーションの設定、課題製作		
6	村川 貴康	PowerPointの操作④	課題製作		
7	村川 貴康	PowerPointの操作⑤	アニメーション効果、画像検索、課題完成、PDF作成 配布資料の作成・印刷方法の理解・習得。		
8	村川 貴康	プレゼンテーションの実践①	発表にむけたテーマ、ストーリーの決定、資料作成。		
9	村川 貴康	プレゼンテーションの実践②	資料作成、発表。		
10	村川 貴康	文章作成・編集・装飾(2)	フォント設定(サイズ、スタイル、色)、太字、斜体、 入力オートフォーマット機能、箇条書き設定の理解・習得。		
11	村川 貴康	表の作成・編集	表の作成と文字入力、サイズ調整、配置方法の理解・習得。 行列の追加・削除、セル結合、線種の変更、塗りつぶし、 スタイルの変更方法の理解・習得。		
12	村川 貴康	罫線の活用	ページ罫線、ワードアート、文字効果、 図形の作成と用途の理解・習得。		
13	村川 貴康	画像や図形の活用	画像(写真)、テキストボックスの挿入、配置、 編集方法と背景色の作成・利用方法の理解・習得。		
14	村川 貴康	資料作成の応用1	ヘッダ、フッターの利用、ビジネス文書の応用作成		
15	村川 貴康	資料作成の応用2	総合問題練習		

科目名	ICT- II		担当講師	村川貴康	
実務経験分類	実務	実務内容	情報処理業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	なし 資料配布				
参考書					
一般目標	Excelを使用し、数式・関数式を利用した表計算技法、グラフ作成の習得Scratchプログラミング、画像編集・加工、動画編集・加工を学ぶことによって論理的に物事を考えられる分析的思考能力を養成し、問題解決をできるようにする。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○実技試験 ・ ○平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	行動目標
1	村川 貴康	表計算ソフト(Excel)の基本	表計算ソフトの理解、EXCELの画面構成、データ入力の特徴、オートフィル機能の理解・習得。
2	村川 貴康	表作成と関数	計算式の入力、演算子、表示形式、表示位置、書式変更、四則演算と関数式の理解・習得。
3	村川 貴康	関数を使った計算式	合計、平均、最大、最小、数を数える関数の使用方法の理解・習得。
4	村川 貴康	小数点とセル参照 (相対参照と絶対参照)	小数点の桁数処理と関数、%スタイル、セル参照の理解・習得。
5	村川 貴康	罫線、行列の編集	罫線の引き方、行列の挿入・削除、グラフ作成の理解・習得。
6	村川 貴康	関数の利用①	入力規制、VLOOKUP関数
7	村川 貴康	Scratch①	Scratchコミュニティのガイドラインからインターネット利用の振り返り。はじめてのプログラミング。
8	村川 貴康	Scratch②	プログラミングをとおして、コンピュータの扱い方などを含めたりテラシーを学ぶ
9	村川 貴康	Scratch③	「プログラミング的思考」を育む
10	村川 貴康	Scratch④	ゲームを作成する
11	村川 貴康	Scratch⑤	ゲームを作成する
12	村川 貴康	関数の利用②	SUMIF関数、COUNTIF関数の理解・習得
13	村川 貴康	関数の利用③	関数を使用して注文書、請求書を作成
14	村川 貴康	ビジネス文書に活用①	表とグラフを含んだビジネス文書作成
15	村川 貴康	ビジネス文書に活用②	表とグラフを含んだビジネス文書作成

科目名	介護福祉論 I		担当講師	畠山 晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第2版」中央法規出版				
参考書	プリント配布				
一般目標	介護福祉士に求められる役割と機能を学び、専門職としての態度が理解できる。介護の様々な場面に必要とされる基礎的な知識・技術を学び、自立に向けた介護が実践できるようになる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(ミニテスト)				
	担当者	講義項目	内 容		
1	畠山 晴美	社会の変化と介護福祉の歴史	制度化以前の介護、家族機能の変化、地域社会の変化		
2	畠山 晴美	社会の変化と介護福祉の歴史	(事例から学ぶ)		
3	畠山 晴美	介護の社会化	介護問題の複雑化・多様化、介護従事者の多様化		
4	畠山 晴美	介護福祉の基本理念	尊厳を支える介護		
5	畠山 晴美	介護福祉の基本理念	自立を支える介護		
6	畠山 晴美	介護福祉の役割と機能	社会福祉士及び介護福祉士法		
7	畠山 晴美	介護福祉の機能と役割	介護人材の中核となるリーダーとしての役割		
8	畠山 晴美	介護福祉の活動の場と役割	地域共生社会と介護福祉士の役割、介護予防と介護福祉士の役割、災害と介護福祉士の役割		
9	畠山 晴美	介護福祉士を支える団体	職能・学術団体の意義、日本介護福祉士会		
10	畠山 晴美	介護福祉士の倫理	職業倫理、法令遵守、日本介護福祉士会倫理綱領		
11	畠山 晴美	自立支援の意義	自立支援の考え方、利用者理解の視点		
12	畠山 晴美	生活意欲と活動	社会参加、レクリエーション		
13	畠山 晴美	介護予防	介護予防の考え方		
14	畠山 晴美	リハビリテーションと介護	生活を通じたリハビリテーション、リハビリテーションと介護予防		
15	畠山 晴美	自立と生活支援	就労支援と介護福祉、家族、地域との関わり		

科目名	介護福祉論Ⅱ		担当講師	畠山 晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	介護を必要とする人たちの理解を深め、それを支えるしくみと、本人主体の生活を地域で継続するための、介護過程が展開できる。介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。各領域で学んだ知識と技術を統合して、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力が育つ。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ ○小テスト				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他 ()				

	担当者	講義項目	内容
1	畠山 晴美	生活の個性と多様性	生活史、価値観、生活習慣、生活様式
2	畠山 晴美	高齢者の生活	高齢者の生活の個性と多様性の理解
3	畠山 晴美	障害者の生活	障害者の生活の個性と多様性の理解
4	畠山 晴美	家族介護者の理解と支援	家族が介護することの意義、家族介護者を支える支援
5	畠山 晴美	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	フォーマル
6	畠山 晴美	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	インフォーマル
7	畠山 晴美	多職種の役割と専門性の理解	医療・保健・福祉職の役割と専門性
8	畠山 晴美	多職種連携の意義と課題	チームアプローチ
9	畠山 晴美	介護における安全の確保	介護事故と法的責任、危険予知と危険回避
10	畠山 晴美	介護における安全の確保	介護におけるリスク、リスクマネジメントの意義・目的
11	畠山 晴美	事故防止と安全対策	ヒヤリハット
12	畠山 晴美	事故防止と安全対策	事例による事故防止
13	畠山 晴美	感染対策	感染予防の基礎知識技術
14	畠山 晴美	介護従事者の安全	労働安全と環境整備
15	畠山 晴美	介護従事者の心身の健康管理	心の健康管理

科目名	栄養調理		担当講師	渡辺 瑞世	
実務経験分類	実務	実務内容	管理栄養士業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	健康な生活を支援するために調理方法の基本を習得し、各種料理の特徴と調理方法の違いについて理解できるようになる。栄養バランスの良い献立の作成・障害に応じた食材の工夫や調理方法が実践できるようになる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○授業態度 ・ 提出物 ・ その他(レポート)				
	担当者	講義項目	内容		
1	渡辺 瑞世	オリエンテーション	実習室のオリエンテーションを行い献立作成の基本を学ぶ		
2	渡辺 瑞世	調理実習	基本的な調理方法の理解(炊飯・だしの取り方)		
3	渡辺 瑞世	調理実習	調理実習		
4	渡辺 瑞世	調理実習	和食の基本を学ぶ		
5	渡辺 瑞世	調理実習	調理実習		
6	渡辺 瑞世	調理実習	洋食の基本を学ぶ		
7	渡辺 瑞世	調理実習	調理実習		
8	渡辺 瑞世	調理実習	中華の基本学ぶ		
9	渡辺 瑞世	調理実習	調理実習		
10	渡辺 瑞世	調理実習	高齢者の特徴を理解し調理を学ぶ		
11	渡辺 瑞世	調理実習	調理実習		
12	渡辺 瑞世	調理実習	栄養素について学ぶ		
13	渡辺 瑞世	調理実習	調理実習		
14	渡辺 瑞世	調理実習	献立作成(自由献立)		
15	渡辺 瑞世	調理実習	調理実習		

科目名	ケア・コミュニケーション I		担当講師	畠山 晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	印刷資料を配布				
参考書	随時紹介				
一般目標	対人援助職としての介護福祉士となるためのコミュニケーションの基本的な心構え、被援助者との関係づくり及び好感・信頼感を高めるコミュニケーションができる				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
1	畠山 晴美	ケア・コミュニケーション	介護におけるコミュニケーションについて考える視点とその役割を理解する。		
2	畠山 晴美	介護とコミュニケーション	介護における被援助者の権利と責務。コミュニケーションの目的をプロセスが理解する。		
3	畠山 晴美	被援助者との関係を築くコミュニケーション	好感・信頼を高める環境・非言語表現・立ち振る舞いができる。		
4	畠山 晴美	敬意を伝えるコミュニケーション	敬語の種類、改まった表現、敬意を払う態度と表現が身に着く。		
5	畠山 晴美	被援助者の理解と情報交換	受容と共感のコミュニケーションについて学び、傾聴ができる。		
6	畠山 晴美	交流分析	交流分析について理解し、自身のコミュニケーションの特徴について理解する。		
7	畠山 晴美	苦情やクレームの対応	苦情・クレームの背景を理解し、適切なクレームの対応について理解する。		
8	畠山 晴美	わかりやすい説明と同意の確認	伝え方の3要素。理論的に話すことについて理解し、正しく情報を伝達する能力を高める。		
9	畠山 晴美	コーチング	主体的な選択・行動を引き出す技法(コーチング)の基本を学び、コーチングを用いたコミュニケーションが図れる。		
10	畠山 晴美	チームワーク	情報の共有、報告、連絡、相談の必要で理解でき、ミスやエラーを防ぐ方法が身に着く。		
11	畠山 晴美	ミーティング・会議	会議やミーティングの目的と効果的な会議・ミーティングの運営について学び、カンファレンス等を進めることができる。		
12	畠山 晴美	アサーティブなコミュニケーション	建設的で爽やかに対話する方法を理解し、アサーティブを用いて対話ができる。		
13	畠山 晴美	その人らしさを大切にする(視覚障害)	視覚障害によるコミュニケーション障害について理解し、コミュニケーションができる。		
14	畠山 晴美	その人らしさを大切にする(聴覚障害)	聴覚障害によるコミュニケーション障害について理解し、コミュニケーションができる。		
15	畠山 晴美	その人らしさを大切にする(認知症)	認知症の理解と認知症のケアにおけるコミュニケーションを学び、認知症ケアに活かせる。		

科目名	ケア・コミュニケーションⅡ		担当講師	畠山 晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	印刷資料を配布				
参考書	随時紹介				
一般目標	その人らしい人生や生活を支援するため対人援助職として、チームワークを円滑に図りながら、全人的に介護ができる				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(小テスト)				
	担当者	講義項目	内容		
1	畠山 晴美	ケア・コミュニケーション の実際1	介護場面をプロセスレコードに落とし込み、ロールプレイを行いコミュニケーションの流れを考察できる。		
2	畠山 晴美	ケア・コミュニケーション の実際2	介護場面のケーススタディを通して、ロールプレイを行いコミュニケーションの改善策を抽出できる。		
3	畠山 晴美	ケア・コミュニケーション の実際3	グループで介護場面のロールプレイを行いコミュニケーションの考察ができる		
4	畠山 晴美	ケア・コミュニケーション の実際4	ケーススタディのロールプレイを行い。場面に応じた改善策を見つけることができる。		
5	畠山 晴美	ケア・コミュニケーション の実際5	ケーススタディのロールプレイを行い。場面に応じた改善策を見つけアドバイスを伝えることができる。		
6	畠山 晴美	チームの一員 1	質問を通して情報収集する手段が身に着く。		
7	畠山 晴美	チームの一員 2	介護場面での報告・連絡・相談ができる。		
8	畠山 晴美	チームの一員 3	ケースカンファレンスの準備、司会進め方ができる		
9	畠山 晴美	チームの一員 4	ケースカンファレンスの記録、チームのPDCAを理解する。		
10	畠山 晴美	チームの一員 5	チームアプローチの方法を実践できる。		
11	畠山 晴美	コミュニケーション(伝達)	5W1Hを使ってわかりやすい指示を考える。		
12	畠山 晴美	コミュニケーション(伝達)	伝達するための掲示物(文書)が作成できる。		
13	畠山 晴美	コミュニケーション(伝達)	掲示物、メモを活用し、正しく必要な事を伝えることができる。		
14	畠山 晴美	コミュニケーション(伝達)	映像や動画などを使って、情報共有ができる。		
15	畠山 晴美	ケア・コミュニケーションのまとめ	被援助者、チームの一員としてのコミュニケーションができる。		

科目名	家庭生活支援技術		担当講師	桑原弘美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第2版」中央法規出版				
参考書	随時 紹介				
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活とは何かを理解し、家庭生活と生活支援技術を関連付けて考えることができるようになる。 自立に向けた視点だけではなく、安全で心地よい生活の場づくりや利用者が家事に参加することを支える介護の必要性が理解できる。 				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	桑原弘美	生活支援の基本的な考え方	生活支援とは何か、生活支援のポイントを学ぶ
2	桑原弘美	自立に向けた家事の介護①	掃除、洗濯演習の実際
3	桑原弘美	生活支援と介護過程	ICFの視点にもとづく生活支援を学ぶ
4	桑原弘美	生活支援とチームアプローチ	ライフステージとチームアプローチのあり方と重要性を理解する
5	桑原弘美	居住環境の整備①	住まいの役割と機能、生活空間を学ぶ
6	桑原弘美	居住環境の整備②	安全で快適な生活環境を理解する
7	桑原弘美	居住環境の整備③	高齢者・障害者の住まい、他職種との連携を学ぶ
8	桑原弘美	福祉用具の意義と目的①	福祉用具とは、福祉用具を使用する意義を学ぶ
9	桑原弘美	福祉用具の意義と目的②	福祉用具の種類、適切な福祉用具を選択するための視点を学ぶ・ICTの活用を理解する
10	桑原弘美	自立に向けた家事の介護②	自立した家事とはを理解する
11	桑原弘美	自立に向けた家事の介護③	調理の介護、献立、行事食を学ぶ
12	桑原弘美	自立に向けた家事の介護④	ごみの分別・衣類・寝具の衛生管理を学ぶ
13	桑原弘美	自立に向けた家事の介護③	買い物、家庭経営、家計の管理を理解する
14	桑原弘美	家事の介護における多職種連携	多職種連携の必要性、在宅と施設の場合を学ぶ
15	桑原弘美	災害時における生活支援	被災地で活動する際の心構え、生活支援の重要性を学ぶ

科目名	生活支援のレクリエーション		担当講師	沼口 奈美子	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	印刷資料を配布				
参考書	随時紹介				
一般目標	レクリエーションとは何かを理解し、自立に向けたレクリエーションの計画を立て演習を行う。安全で楽しめるレクリエーションを企画・運営ができる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ その他 ()				
	担当者	講義項目	内容		
1	沼口 奈美子	レクリエーションの意義	レクリエーションの概要、特徴、必要性について説明		
2	沼口 奈美子	介護におけるレクリエーションの意義	介護場面でのレクリエーションの役割を学ぶ		
3	沼口 奈美子	要介護者とレクリエーション	要介護者の心理や体の状態を理解し、状況に合わせたレクリエーションを学ぶ		
4	沼口 奈美子	集団とレクリエーション	集団で行う場合の注意点、進行の仕方について学ぶ。個別と集団の関わり方の違いを理解する。		
5	沼口 奈美子	レクリエーションの基本	レクリエーションによるコミュニケーションと信頼関係について学ぶ		
6	沼口 奈美子	介護レクリエーションの支援方法①	「アイスブレーキング」の展開方法と実践について学ぶ		
7	沼口 奈美子	介護レクリエーションの支援方法②	支援者の役割や介護レクリエーションの展開方法について学ぶ		
8	沼口 奈美子	介護レクリエーション実践①	身近なものや手作りのものを使った介護レクリエーションを企画・立案・実践する		
9	沼口 奈美子	介護レクリエーション実践②	身近なものや手作りのものを使った介護レクリエーションを企画・立案・実践する		
10	沼口 奈美子	介護レクリエーション実践の振り返り	実践を振り返り、対象者に合わせるアレンジと応用を学ぶ		
11	沼口 奈美子	介護レクリエーション実践③	対象者に合わせた介護レクリエーションを企画・立案・実践する		
12	沼口 奈美子	介護レクリエーション実践④	対象者に合わせた介護レクリエーションを企画・立案・実践する		
13	沼口 奈美子	介護レクリエーション実践の振り返り	実践を振り返り、留意点について考える		
14	沼口 奈美子	グループワーク	グループワークを行い、意見をまとめ発表する		
15	沼口 奈美子	まとめ	今までの授業内容を復習する		

科目名	生活支援技術Ⅰ		担当講師	桑原弘美・畠山晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版」中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を支える日常生活動作の意義や目的について理解する。 ・睡眠の環境整備や、移動・移乗の介護技術の基本的な知識と技術を身につけることができる ・観察、アセスメント、考察する能力を身につけ、尊厳を守る介護技術を身につけることができる 				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	桑原弘美	休息・睡眠の意義と目的と 休息・睡眠の効果	休息・睡眠の重要性、特徴を学び効果を理解する
2	桑原弘美	快適な安眠の一連の流れ・ 安眠を阻害する要因	休息・睡眠の環境整備や寝具の選択と室内環境を整え、安楽な姿勢や体位を学ぶ
3	桑原弘美	休息・睡眠環境を整える	ベットメイキングのポイント(1人で行う場合)を意識して実践する
4	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	ボディメカニクスを応用の実際
5	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	起居動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり)の介助
6	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	体位変換の介助実際①
7	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	体位変換の介助実際②
8	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	安楽な姿勢・体位を保持する介助
9	桑原弘美	休息・睡眠環境を整える	ベットメイキングのポイント(利用が臥床中の場合)
10	桑原弘美	休息・睡眠環境を整える	ベットメイキングのポイント(利用が臥床中の場合・2人で行う場合)
11	桑原弘美	休息・睡眠の介護における 多職種との連携	利用者のより良い生活に向けて、休息・睡眠の介護における多職種連携の必要性について理解し、役割を学ぶ
12	桑原弘美	睡眠・移動・移乗	総合演習(介助の実際)
13	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	車いすの基礎構造を学ぶ
14	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	車いすの基本的な使い方の実際
15	桑原弘美	自立に向けた移動・ 移乗の介護	ベッドから車いすへの移乗介助

科目名	生活支援技術Ⅱ		担当講師	桑原弘美・畠山晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版」中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	生活の中で欠かせない重要な役割を担っている移動・移乗や身支度の自立に向けた介助の在り方や、一連の流れ、介護するために介護福祉職がすべきことを理解する				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	桑原弘美	自立に向けた移動・移乗の介護	移動・移乗のための道具・用具(福祉用具)と他職種連携
2	桑原弘美	自立に向けた移動・移乗の介護	車いすでの移動の介助
3	桑原弘美	自立に向けた移動・移乗の介護	歩行の介助の実際を学ぶ(杖歩行介助他)
4	桑原弘美	自立に向けた移動・移乗の介護	総合演習(介助の実際/ポジショニング、シーティング他)
5	桑原弘美	自立に向けた身じたくの介護	衣服の着脱の役割を考え衛生管理や利用者に応じた視点を考える
6	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	衣服の着脱の役割を考え衛生管理や利用者に応じた視点を考える
7	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	洗顔・清拭・整髪
8	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	ヒゲの手入れ・爪の手入れ・耳の清潔介助など
9	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	口腔ケア(歯の磨き方・清拭法・義歯の清掃法・歯磨きの介助)
10	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	衣服の着脱の役割を考え衛生管理や利用者に応じた視点を考える
11	桑原弘美	身じたくとの介護における多職種との連携	身じたくとの介護における多職種との連携の必要性や役割を考える
12	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	衣服着脱の介助の実際(自立度が高い利用者・麻痺のある利用者の衣服着脱介助)
13	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	衣服着脱の介助の実際(臥床したままのある利用者の衣服着脱介助)
14	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	衣服着脱の介助の実際(臥床したままのある利用者の衣服着脱介助・和服の着脱介助)
15	桑原弘美	利用者の状態に応じた身じたくの介助	総合演習(介助の実際)

科目名	生活支援技術Ⅲ		担当講師	桑原弘美・畠山晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版」中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な入浴や排泄方法を学び、利用者の尊厳を遵守した介護の留意点を習得する。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	桑原弘美	自立に向けた入浴・生活保持の介護	入浴・清潔の目的は何か影響と意義を学び尊厳を守り、自立心を可能にするアセスメント力をつける
2	桑原弘美	浴室での入浴	浴室での入浴の介助を実践する(洗身・洗髪・シャワー浴等)
3	桑原弘美	特殊浴槽(機械浴)を使用する入浴介助	特殊浴槽(機械浴)を使用する入浴を実践する
4	桑原弘美	清潔保持の介助	全身清拭・足浴・手浴の実際を学ぶ
5	桑原弘美	洗髪①	臥床したままでの洗髪を学ぶ
6	桑原弘美	洗髪②	臥床したままでの洗髪を学ぶ
7	桑原弘美	入浴・清潔保持の介護における多職種との連携	入浴・清潔保持にかかわる多職種との必要性・役割・連携について理解する・感染症対応等
8	桑原弘美	自立に向けた排泄の介護	自立した排泄と自立に向けた排泄の介護・感染症対応
9	桑原弘美	車いす利用者の排泄介助	車いす利用者の排泄介助を実践する
10	桑原弘美	ポータブルトイレでの排泄①	ポータブルトイレでの排泄の介助を実践する
11	桑原弘美	ポータブルトイレでの排泄②	ポータブルトイレでの排泄の介助を実践する
12	桑原弘美	尿器、差し込み便器での排泄介助	尿器、差し込み便器での排泄の介助を実践する
13	桑原弘美	おむつでの排泄の介助①	ベッド上でのおむつ介助を実践する
14	桑原弘美	おむつでの排泄の介助②	ベッド上でのおむつ介助を実践する
15	桑原弘美	頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応	排尿障害について対応について考える

科目名	生活支援技術Ⅳ		担当講師	桑原弘美・畠山晴美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版」中央法規出版 「最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	・自立した食事の在り方や目的の一連の流れについて理解し、介護を必要とする利用者の心身の状態・状況に応じた適切な介助方法を学び介護の留意点を習得する。 ・人生の最終段階における介護を学ぶ。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
16	桑原弘美	自立した食事のとは	自立に向けた食事の介護をするためにすべきこと(食事の意義と目的)		
2	桑原弘美	自立に向けた食事の介護	利用者の持つ機能を活用し、介護を必要とする利用者の心身の状況に応じた適切な食事介助方法を学ぶ(福祉用具の活用)		
3	桑原弘美	利用者の状態に応じた食事の介助①	部分介助が必要な利用者の介助を実践する(食卓で行う介助)		
4	桑原弘美	利用者の状態に応じた食事の介助②	部分介助が必要な利用者の介助を実践する(食卓で行う介助)		
5	桑原弘美	ベッド上で行う食事の介助①	片麻痺、嚥下障害があり、座位が保てず動作全般にわたり介助が必要な利用者の介助を実践する		
6	桑原弘美	ベッド上で行う食事の介助②	片麻痺、嚥下障害があり、座位が保てず動作全般にわたり介助が必要な利用者の介助を実践する		
7	桑原弘美	誤嚥予防のための支援	嚥下体操の実践・食後の口腔ケア		
8	桑原弘美	食事の介護における多職種との連携	自立に向けた食事の支援のために、他職種と連携する意味や役割を理解する		
9	桑原弘美	人生の最終段階における介護	人生の最終段階に意義と介護の役割を学ぶ		
10	桑原弘美	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護と他職種連携を理解する		
11	桑原弘美	事例検討①	事例を検討し、介助技術を理解する		
12	桑原弘美	事例検討②	事例を検討し、介助技術を理解する		
13	桑原弘美	事例検討③	事例を検討し、介助技術を理解する		
14	桑原弘美	事例検討④	事例を検討し、介助技術を理解する		
15	桑原弘美	事例検討⑤	事例を検討し、介助技術を理解する		

科目名	介護過程 I		担当講師	畠山 晴美・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	授業や介護実習を通して得た知識や技術を統合化し、介護過程の理論、ICFの概念、自立支援にぞった介護計画の立案、実践における連携の重要性、評価方法の基本を学ぶ。生活課題の明確化と利用者ニーズの発見が可能となる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ ○実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(発表)				
	担当者	講義項目	内容		
1	畠山 晴美 介護福祉科専任	生活支援と介護過程	生活支援と介護過程について理解する		
2	畠山 晴美 介護福祉科専任	ICFと介護過程	ICFと介護過程の関連について理解する。		
3	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護過程の基本視点	介護過程とケアマネジメントについて理解し、介護に結びつける		
4	畠山 晴美 介護福祉科専任	アセスメントの理解①	情報収集の方法、留意点について理解する		
5	畠山 晴美 介護福祉科専任	アセスメントの理解②	情報の解釈・関連・統合化の思考について理解し文章にする		
6	畠山 晴美 介護福祉科専任	アセスメントの理解③	生活課題の明確化ができ利用者ニーズを発見できる		
7	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護計画の立案①	介護計画全体の構成について理解し、目標をつくることのできる		
8	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護計画の立案②	目標に沿った支援内容について考えられる。		
9	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護計画の立案③	目標に沿った支援内容について説明できる。		
10	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護実践①	介護実践における連携方法と留意点		
11	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護実践②	介護実践の実際について理解する		
12	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護実践③	介護実践の実際と利用者状況の変化について理解する		
13	畠山 晴美 介護福祉科専任	評価方法	評価の視点を学び、実践内容を評価できる		
14	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース記録①	利用者の状況、介護実践について記録の重要性を理解する。		
15	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース記録②	介護実践評価と利用者ニーズの変化について記録できる。		

科目名	介護過程Ⅱ		担当講師	畠山 晴美・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画の関係性、チームとして介護過程を展開することの意味や方法を理解する。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ ○実習 ・ その他()				
学習評価	○提出物 ・ その他(発表)				
	担当者	講義項目	内容		
1	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の情報整理①	情報収集した内容から介護計画に必要な情報を抽出できる		
2	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の情報整理②	必要な情報を的確に表現できる		
3	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の全体像を理解	情報整理後、ケース利用者の生活像を理解してニーズを発見できる		
4	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の情報の解釈・関連・統合化①	安全の視点から情報を整理し、生活課題を抽出できる		
5	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の情報の解釈・関連・統合化②	自立の視点から情報を整理し、生活課題を抽出できる		
6	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の情報の解釈・関連・統合化③	快適の視点から情報を整理し、生活課題を抽出できる		
7	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の介護計画の立案①	ケース利用者の生活課題の優先順位を決め目標を決める		
8	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の介護計画の立案②	介護計画内容を明確にし、チームアプローチとして計画できる。		
9	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの目的	ケーススタディ(研究)の役割と方法が理解できる。		
10	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの作成①	介護実習2-Ⅱで介護計画に沿って実践した内容を整理する。		
11	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの作成②	介護実習2-Ⅱで介護計画に沿って実践した内容を整理する。		
12	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの作成③	介護実習2-Ⅱで介護計画に沿って実践した内容を整理する。		
13	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの作成④	介護実習2-Ⅱで介護計画に沿って実践した内容を整理する。		
14	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの作成⑤	介護実習2-Ⅱで介護計画に沿って実践した内容を整理する。		
15	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの作成⑥	介護実習2-Ⅱで介護計画に沿って実践した内容を整理する。		

科目名	介護総合演習 I		担当講師	桑原弘美・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「2023年度改訂版 介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校 「2023年版 学生用介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版」 中央法規出版				
一般目標	視覚障害者介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ ○その他 (実習報告会)				
学習評価	平常点(出席・参加態度) レポート内容 発表会の総合評価				
	担当者	講義項目	行動目標		
1	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護総合演習で何を学ぶか①	介護総合演習の位置づけと目的を学ぶ		
2	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護総合演習で何を学ぶか②	介護実習の意義と目的・種類・実習前の学び		
3	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習に関する基礎知識①	実習先の特徴、実習先での学びを理解する。		
4	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習に関する基礎知識②	実習先の特徴、実習先での学びを理解する。		
5	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習 I の展開①	初めて取り組む実習の目的と目標を理解する。 (ファイル、課題、個人票、事前学習の作成)		
6	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習 I の展開②	初めて取り組む実習の目的と目標を理解する。 (ファイル、課題、個人票、事前学習の作成)		
7	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習 I の展開③	他の科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをもつ (個人情報の取り扱い、健康管理、日誌の意義と目的・留意点、カンファレンスの練習他)		
8	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習 I の展開④	他の科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをもつ (個人情報の取り扱い、健康管理、日誌の意義と目的・留意点、カンファレンスの練習他)		
9	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習 I の展開⑤	介護実習が始まる前までの流れと実習中の学習内容を理解する。(事前訪問までの準備、練習・実習中の確認)		
10	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習 I ・実習の振り返り	実習後の学習の意義と目的を理解する。学習内容を理解する。(実習の振り返り)		
11	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習 I ・実習の振り返り	実習後の学習の意義と目的を理解する。学習内容を理解する。(お礼状・実習ファイル作成他)		
12	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習報告会に向けて	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、発表原稿、パワーポイント作成他)		
13	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習報告会に向けて	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、発表原稿、パワーポイント作成他)		
14	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習報告会に向けて	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、発表原稿、パワーポイント作成他)		
15	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習 I 実習報告会①	実習での学びのまとめを発表する。 (実習 I 報告会)		

科目名	介護総合演習Ⅱ		担当講師	桑原弘美・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「2023年度改訂版 介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校 「2023年版 学生用介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版」 中央法規出版				
一般目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ ○その他 (実習報告会)				
学習評価	平常点(出席・参加態度) レポート内容 発表会の総合評価				

	担当者	講義項目	行動目標
1	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅰ実習報告会②	実習での学びのまとめを発表する。 (実習Ⅰ報告会)
2	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅰ実習報告会③	実習での学びのまとめを発表する。 (実習Ⅰ報告会)
3	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅰ実習報告会④	実習での学びのまとめを発表する。 (実習Ⅰ報告会)
4	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅰの振り返りと 実習Ⅱに向けて①	実習体験の評価と整理と実習Ⅱに向けて目的を明らかにできる。
5	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅰの振り返りと 実習Ⅱに向けて②	実習体験の評価と整理、実習Ⅱに向けて目的を明らかにできる。
6	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの基礎知識①	実習Ⅱ先の特徴、実習先での学びを理解する。
7	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの基礎知識②	実習Ⅱ先の特徴、実習先での学びを理解する。
8	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの展開①	実習の目的と目標を理解する。 (ファイル、課題、個人票、事前学習の作成)
9	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの展開②	実習の目的と目標を理解する。 (ファイル、課題、個人票、事前学習の作成)
10	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの展開③	実習の目的と目標を理解する。 (ファイル、課題、個人票、事前学習の作成)
11	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの展開⑤	他の科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをもつ(個人情報の取り扱い、健康管理、日誌の意義と目的・留意点、カンファレンスの練習他)
12	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの展開⑤	他の科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをもつ(個人情報の取り扱い、健康管理、日誌の意義と目的・留意点、カンファレンスの練習他)
13	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱの展開⑤	他の科目で学習した内容を結びつけ、実習のイメージをもつ(個人情報の取り扱い、健康管理、日誌の意義と目的・留意点、カンファレンスの練習他)
14	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱ 実習の振り返り	実習後の学習の意義と目的を理解する。学習内容を理解する。(実習の振り返り)
15	桑原 弘美 介護福祉科専任	介護実習Ⅱ 実習の振り返り	実習後の学習の意義と目的を理解する。学習内容を理解する。(実習の振り返り)

科目名	介護総合演習Ⅲ		担当講師	桑原弘美・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「2023年度改訂版 介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校 「2023年版 学生用介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版」 中央法規出版				
一般目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ ○実習 ・ ○その他（ 報告会の実施 ）				
学習評価	平常点(出席・参加態度) レポート内容 発表会の総合評価				

	担当者	講義項目	行動目標
1	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ・実習後のまとめ	実習後の学習の意義と目的を理解する。学習内容を理解する。(お礼状、ケーススタディ、実習ファイル作成他)
2	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ・実習後のまとめ	実習後の学習の意義と目的を理解する。学習内容を理解する。(お礼状、ケーススタディ、実習ファイル作成他)
3	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ・実習後のまとめ	実習後の学習の意義と目的を理解する。学習内容を理解する。(お礼状、ケーススタディ、実習ファイル作成他)
4	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ・実習後のまとめ	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、パワーポイント、発表原稿他)を作成する。
5	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ・実習後のまとめ	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、パワーポイント、発表原稿他)を作成する。
6	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習報告会に向けて	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、パワーポイント、発表原稿他)を作成する。
7	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習報告会に向けて	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、パワーポイント、発表原稿他)を作成する。
8	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習報告会に向けて	実習後の学習内容を理解する。倫理的配慮 実習報告会に向けて(冊子、パワーポイント、発表原稿他)を作成する。
9	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ 実習報告会①	実習での学びのまとめを発表する。 (実習報告会)
10	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ 実習報告会②	実習での学びのまとめを発表する。 (実習報告会)
11	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ 実習報告会③	実習での学びのまとめを発表する。 (実習報告会)
12	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱ 実習報告会④	実習での学びのまとめを発表する。 (実習報告会)
13	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱの振り返りと 実習Ⅲに向けて①	体験の評価と整理と実習Ⅲに向けて目的を明らかにできる。
14	桑原 弘美 介護福祉科専任	実習Ⅱの振り返りと 実習Ⅲに向けて②	体験の評価と整理と実習Ⅲに向けて目的を明らかにできる。
15	桑原 弘美	実習Ⅲで想定される実習先の	実習Ⅲの目的を明らかにできる

科目名	介護実習 I		担当講師	介護福祉科専任教員	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	40時間	単位数	1単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「2023年度改訂版 介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校 「2023年版 学生用介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版」 中央法規出版				
一般目標	1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 3. 生活と地域とのかかわり、高齢者の生活を理解する。 4. 地域拠点としての施設、事業所の役割を理解する。				
学習方法	○実習 ・ ○その他(カンファレンス)				
学習評価	平常点 ・ 提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	行動目標		
1	介護福祉科専任教員	施設の概要	施設の概要、サービス提供までの流れを知る。		
2	介護福祉科専任教員	居宅生活者の生活を理解する。	サービス提供までの流れを理解する 利用者の生活を理解する。		
3	介護福祉科専任教員	居宅生活者の生活を理解する。	利用者とのコミュニケーション能力を養い、多職種連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 利用者の生活を理解し、地域における役割を理解する。		
4	介護福祉科専任教員	居宅生活者の生活を理解する。	利用者とのコミュニケーション能力を養い、多職種連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 利用者の生活を理解し、地域における役割を理解する。		
5	介護福祉科専任教員	居宅生活者の生活を理解する。	利用者とのコミュニケーション能力を養い、多職種連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。 利用者の生活を理解し、地域における役割を理解する。		

科目名	介護実習Ⅱ		担当講師	介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	240時間	単位数	6単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「2023年度改訂版 介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校 「2023年版 学生用介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版」 中央法規出版				
一般目標	1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 3. 施設で生活する人の生活についてアセスメントし全体像を把握する。 4. 基本的な介護技術を実践する。報告、連絡ができる。				
学習方法	○実習 ・ ○その他(カンファレンス)				
学習評価	平常点 ・ 提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	行動目標
1～5	介護福祉科専任教員	施設の理解と必要な日常生活援助の実践	①施設の概要を理解する。 ②利用者の個性に応じた生活援助を理解し、日常生活援助技術の実践を行う。(見学・実施) ③プライバシーへの配慮、安全安楽、自立支援を考え事故の行為を、利用者の反応などを観察することから振り返り、課題を明らかにできる。
6～10	介護福祉科専任教員	担当(受け持ち利用者)を決める	①受け持ち利用者を通して情報収集・アセスメントを行う。 ②入所者の把握をする。 ③自己の実習目標と照らし合わせながら決定の動機を明らかにする。 ④日常生活援助技術の実践
10～15	介護福祉科専任教員	利用者人間関係を深めアセスメントし、利用者の全体像を把握する。	①受け持ち利用者の情報収集・アセスメントの継続。 ②受け持ち利用者の日常生活行動を観察し理解する。 ③正常・異常を知る。 ④アセスメントした結果を統合し、全体像を完成させる。
16～20	介護福祉科専任教員	利用者人間関係を深めアセスメントし、利用者の全体像を把握する。	①受け持ち利用者の情報収集・アセスメントの継続。 ②受け持ち利用者の日常生活行動を観察し理解する。 ③正常・異常を知る。 ④アセスメントした結果を統合し、全体像を完成させる。 ⑤夜勤時間帯の利用者の生活を理解する。
21～25	介護福祉科専任教員	多職種協働について	①受け持ち利用者を通して制度利用の方法を知る。 ②多職種の業務を理解し、連携の実体験をする。(SW、NS、CM、PT、OT、ST等との連携の実際をしる。) ③家族とのコミュニケーションの実際を知る。
26～30	介護福祉科専任教員	自己の行動、周囲の状況を判断し報告・連絡・相談する。	①報告、連絡、相談の方法を知る。 ②援助実施前後の報告をする。

科目名	こころとからだのしくみ I		担当講師	菅原 悦子	
実務経験分類	実務	実務内容	看護師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	1. 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。 2. 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだの仕組みの基礎を理解し、説明できる。				
学習方法	講義 ・ 演習				
学習評価	単位認定試験・平常点				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原 悦子	序章 健康について	健康の概念 健康を阻害する要因について理解し、説明できる
2	菅原 悦子	第1章 こころのしくみの理解 第1節	人間の欲求(基本的欲求、社会的欲求)を理解し説明できる。
3	菅原 悦子	第1章 こころのしくみの理解 第2節	・自己概念とそれに影響を与える要因について理解する。 ・自立への意欲と自己概念の関係について理解する。 ・自己実現と尊厳、生きがいについて理解する。
4	菅原 悦子	第1章 こころのしくみの理解 第3節こころのしくみの基礎	脳とこころの関係について理解し説明できる。 ・脳のもつ機能
5	菅原 悦子	第1章 こころのしくみの理解 第3節こころのしくみの基礎	脳とこころの関係について理解し説明できる。 認知・学習・記憶・思考の仕組み・感情・意欲・動機付け・適応と適応機制を理解する。
6	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・細胞・身体各部の名称
7	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・脳・神経系
8	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・感覚器 ・内臓の名称
9	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・呼吸器系
10	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・循環器系
11	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・消化器系
12	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・泌尿器系
13	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・骨 筋肉 神経系
14	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・生殖器・内分泌 ・血液 体液 リンパについて
15	菅原 悦子	第2章 からだのしくみの理解 第1節からだのしくみ	からだのしくみの理解し説明できる。 ・生命の維持と恒常性のしくみ・薬の知識

科目名	こころとからだのしくみⅡ		担当講師	菅原 悦子	
実務経験分類	実務	実務内容	看護師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期

教科書	「最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	1. 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。 2. 介護サービスを実際に提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間のこころのしくみとからだの仕組みの基礎を理解し、説明できる。				
学習方法	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	単位認定試験 平常点				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原 悦子	移動に関連したこころとからだのしくみ	移動に関連したこころとからだのしくみ、機能低下・障害が移動に及ぼす影響を理解し説明できる。
2	菅原 悦子	移動に関連したこころとからだのしくみ	生活支援の場面における移動に関連した変化の気づきと医療職などとの連携について理解し説明できる。
3	菅原 悦子	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくに関連したこころとからだのしくみ、機能低下・障害が身じたくに及ぼす影響を理解し説明できる。
4	菅原 悦子	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	生活支援の場面における身じたくに関連した変化の気づきと医療職などとの連携について理解し説明できる。
5	菅原 悦子	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事に関連したこころとからだのしくみ、機能低下・障害が食事に及ぼす影響を理解し説明できる。
6	菅原 悦子	食事に関連したこころとからだのしくみ	生活支援の場面における食事に関連した変化の気づきと医療職などとの連携について理解し説明できる。
7	菅原 悦子	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ、機能低下・障害が入浴・清潔に及ぼす影響を理解し説明できる。
8	菅原 悦子	入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ	生活支援の場面における入浴・清潔に関連した変化の気づきと医療職などとの連携について理解し説明できる。
9	菅原 悦子	排泄に関連したこころとからだのしくみ	排泄に関連したこころとからだのしくみ、機能低下・障害が排泄に及ぼす影響を理解し説明できる。
10	菅原 悦子	排泄に関連したこころとからだのしくみ	生活支援の場面における排泄に関連した変化の気づきと医療職などとの連携について理解し説明できる。
11	菅原 悦子	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ、機能低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響を理解し説明できる。
12	菅原 悦子	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	生活支援の場面における休息・睡眠に関連した変化の気づきと医療職などとの連携について理解し説明できる。
13	菅原 悦子	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	終末期に関連したこころとからだのしくみについて理解し説明できる。
14	菅原 悦子	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	終末期に関連したこころとからだのしくみについて、終末期の医療職との連携を理解し説明できる。
15	菅原 悦子	全体のまとめ	全体のまとめ

	認知症の理解 I		担当講師	横山 麻悠美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	プリント配布				
一般目標	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心にそなえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解できるようになる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
1	横山 麻悠美	認知症ケアの歴史	認知症ケアの歴史、諸外国と我が国の歴史的背景を知る。		
2	横山 麻悠美	認知症ケアの理念	認知症ケアの理念、倫理、権利擁護		
3	横山 麻悠美	認知症とは何か	認知症の定義、診断基準、特徴		
4	横山 麻悠美	脳のしくみ	脳の構造、機能、症状		
5	横山 麻悠美	認知症のさまざまな症状	中核症状とBPSDの理解・生活障害の理解		
6	横山 麻悠美	認知症のさまざまな症状			
7	横山 麻悠美	認知症の検査・診断	簡易スクリーニングテスト、認知症の重症度の評価		
8	横山 麻悠美	認知症と鑑別すべき症状・疾患	うつ病、せん妄		
9	横山 麻悠美	認知症の原因疾患と症状	アルツハイマー型認知症		
10	横山 麻悠美	認知症の原因疾患と症状	血管性認知症、レビー小体型認知症		
11	横山 麻悠美	認知症の原因疾患と症状	前頭側頭型認知症		
12	横山 麻悠美	認知症の原因疾患と症状	その他の認知症		
13	横山 麻悠美	若年性認知症	若年性認知症の定義、現状、生活上の課題と支援		
14	横山 麻悠美	認知症の治療	薬物療法(薬の作用・副作用)		
15	横山 麻悠美	認知症の予防	認知症の危険因子、認知症の予防、軽度認知機能障害		

科目名	障害の理解 I	担当講師	久保 晃利
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・社会福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版」中央法規出版		
参考書	『ICFの理解と活用』(上田敏: 萌文社)他随時紹介する		
一般目標	障がいの概念、障がい者福祉の基本理念、障がいの基本的知識、障がいがある人の生活実態、連携協働、家族への支援内容を学び、障がいの医学的・心理的・社会的理解ならびに介護上の留意点、他機関との連携や家族支援について理解し、説明できる。		
学習方法	○講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他()		
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ 提出物 ・ その他()		

	担当者	講義項目	行動目標
1	久保 晃利	障害の概念と障害者福祉の基本理念①	障害の概念、障害のとらえ方について、医学モデル・社会モデル・国際生活機能分類・各法律から学ぶ。
2	久保 晃利	障害の概念と障害者福祉の基本理念②	ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン、エンパワメント、ストレングス等について学ぶ。
3	久保 晃利	障害の概念と障害者福祉の基本理念③	障害者福祉に関する歴史、障害者福祉に関連する制度、障害者総合支援法と介護保険制度の違い・併用について学ぶ
4	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I ①	障害のある人の心理、肢体不自由について学ぶ
5	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I ②	視覚障害、聴覚・言語障害について学ぶ
6	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I ③	重複障害、心臓機能障害について学ぶ
7	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I ④	動画 重複障害ヘレンケラー
8	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I ⑤	呼吸器機能障害、腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害について学ぶ
9	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I ⑥	小腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝臓機能障害について学ぶ
10	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I ⑦ II ①	重症心身障害、知的障害について学ぶ
11	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II ②	精神障害、高次脳機能障害について学ぶ
12	久保 晃利	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 II ③	発達障害、難病について学ぶ
13	久保 晃利	連携と協働	地域のサポート体制、チームアプローチについて学ぶ
14	久保 晃利	家族への支援①	家族への支援、家族の介護力の評価と介護負担の軽減について学ぶ
15	久保 晃利	家族への支援②	動画 家族支援を考える

科目名	医療的ケア I		担当講師	菅原 悦子	
実務経験分類	実務	実務内容	看護師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第2版」中央法規出版出版				
参考書					
一般目標	1. 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 2. 医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「倫理上の留意点」「感染予防」「安全管理体制」などについての基礎知識を理解できる。				
学習方法	講義 ・ 演習 ・ その他()				
学習評価	単位認定試験 平常点				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原 悦子	医療的ケアの背景	医療的ケア医行為について理解する。
2	菅原 悦子	喀痰吸引の制度について	医療の倫理について理解する。
3	菅原 悦子	医療的ケアの背景	医療的ケアが法律化されるまでの背景を理解する。
4	菅原 悦子	安全な療養生活(感染予防)	感染予防について理解する。
5	菅原 悦子	安全な療養生活(感染予防)	感染予防 実技を通し理解し実施できる。
6	菅原 悦子	安全な療養生活(感染予防)	感染予防 実技を通し理解し実施できる。
7	菅原 悦子	安全な療養生活(救急蘇生)	救急蘇生 演習を通し理解し説明実施できる。
8	菅原 悦子	安全な療養生活(救急蘇生)	救急蘇生 演習を通し理解し説明実施できる。
9	菅原 悦子	安全な療養生活(救急蘇生)	救急蘇生 演習を通し理解し説明実施できる。
10	菅原 悦子	安全な療養生活 (リスクマネジメント)	リスクマネジメントについて理解し説明できる。
11	菅原 悦子	安全な療養生活 (リスクマネジメント)	リスクマネジメントについて理解し説明できる。
12	菅原 悦子	健康状態の把握	バイタルサインについて理解し説明、正しく測定できる。
13	菅原 悦子	健康状態の把握	バイタルサインについて理解し説明、正しく測定できる。
14	菅原 悦子	健康状態の把握	バイタルサインについて理解し説明、正しく測定できる。
15	菅原 悦子	健康状態の把握	バイタルサインについて理解し説明、正しく測定できる。
16	菅原 悦子	健康状態の把握	急変状態について
17	菅原 悦子	健康状態の把握	急変状態について
18	菅原 悦子	健康状態の把握	急変状態について

科目名	言語コミュニケーション I (英語)	担当講師	浦島 久・夏堀 素子・浦島 洋奈		
実務経験分類	実務	実務内容	英語の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	随時、紹介				
参考書					
一般目標	外国人の介護スタッフとコミュニケーションができ、かつ、国際的な感覚を養う (3レベル(A/B/C)に分けて行う)				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ 提出物 ・ その他(英語力試験)				

	担当者	講義項目	行動目標
1	英語講師	言語(英語)の基本①	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる①
2	英語講師	言語(英語)の基本②	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる②
3	英語講師	言語(英語)の基本③	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる③
4	英語講師	言語(英語)の基本④	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる④
5	英語講師	言語(英語)の基本⑤	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑤
6	英語講師	言語(英語)の基本⑥	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑥
7	英語講師	言語(英語)の基本⑦	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑦
8	英語講師	言語(英語)の基本⑧	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑧
9	英語講師	言語(英語)の基本⑨	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑨
10	英語講師	言語(英語)の基本⑩	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑩
11	英語講師	言語(英語)の基本⑪	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑪
12	英語講師	言語(英語)の基本⑫	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑫
13	英語講師	言語(英語)の基本⑬	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑬
14	英語講師	言語(英語)の基本⑭	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑭
15	英語講師	言語(英語)の基本⑮	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑮

科目名	言語コミュニケーション I (日本語)		担当講師	荒井 生子・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	日本語講師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期

教科書	「外国人のための会話で学ぼう！介護の日本語」 中央法規出版出版				
参考書	日本語レベルに応じて適宜紹介				
一般目標	日本語の文化・しきたりを交え、日本語の読み・書きを中心に日本語の習得を目指す。 (N3/N2以上 の2クラスに分かれ日本語能力検定合格を目指す)				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ ○その他(検定合格)				

	担当者	講義項目	行動目標
1	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ①	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる①
2	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ②	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる②
3	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ③	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる③
4	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ④	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる④
5	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑤	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑤
6	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑥	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑥
7	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑦	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑦
8	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑧	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑧
9	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑨	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑨
10	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑩	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑩
11	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑪	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑪
12	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑫	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑫
13	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑬	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑬
14	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑭	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑭
15	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑮	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑮

科目名	言語コミュニケーションⅡ(英語)		担当講師	浦島 久・夏堀 素子・浦島 洋奈	
実務経験分類	実務	実務内容	英語の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書					
参考書					
一般目標	外国人の介護スタッフとコミュニケーションができ、かつ、国際的な感覚を養う (3レベル(A/B/C)に分けて行う)				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ 提出物 ・ その他(英語力試験)				

	担当者	講義項目	行動目標
1	英語講師	言語(英語)の基本①	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる①
2	英語講師	言語(英語)の基本②	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる②
3	英語講師	言語(英語)の基本③	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる③
4	英語講師	言語(英語)の基本④	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる④
5	英語講師	言語(英語)の基本⑤	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑤
6	英語講師	言語(英語)の基本⑥	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑥
7	英語講師	言語(英語)の基本⑦	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑦
8	英語講師	言語(英語)の基本⑧	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑧
9	英語講師	言語(英語)の基本⑨	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑨
10	英語講師	言語(英語)の基本⑩	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑩
11	英語講師	言語(英語)の基本⑪	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑪
12	英語講師	言語(英語)の基本⑫	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑫
13	英語講師	言語(英語)の基本⑬	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑬
14	英語講師	言語(英語)の基本⑭	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑭
15	英語講師	言語(英語)の基本⑮	日常英語の基本を理解しコミュニケーションがとれる⑮

科目名	言語コミュニケーションⅡ(日本語)		担当講師	荒井 生子・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	日本語講師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「外国人のための会話で学ぼう! 介護の日本語」 中央法規出版				
参考書	日本語レベルに応じて適宜紹介				
一般目標	日本語の文化・しきたりを交え、日本語の読み・書きを中心に日本語の習得を目指す。 (N3/N2以上の2クラスに分かれ日本語能力検定合格を目指す)				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ ○その他(検定合格)				

	担当者	講義項目	行動目標
1	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ①	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる①
2	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ②	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる②
3	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ③	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる③
4	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ④	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる④
5	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑤	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑤
6	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑥	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑥
7	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑦	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑦
8	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑧	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑧
9	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑨	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑨
10	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑩	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑩
11	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑪	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑪
12	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑫	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑫
13	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑬	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑬
14	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑭	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑭
15	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑮	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑮

科目名	放送大学 I (認知症と生きる)		担当講師	桑原弘美・介護教職員	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「認知症と生きる」放送大学教材				
参考書					
一般目標	介護福祉士として職務に必要な教養を身につける。放送大学の継続・卒業を目指す。				
学習方法	○講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
1	桑原弘美 介護教職員	現代社会における認知症	認知症の歴史的な返還を知ることから今日的課題を理解する。		
2	桑原弘美 介護教職員	認知症の人のライフヒストリーと地域包括ケアシステム	事例を通して、認知症へのかかわり方、地域包括ケアシステムの重要性を知る。		
3	桑原弘美 介護教職員	認知症の発症予防と普段からの健康管理	認知症予防のための青年期からの管理について学ぶ。		
4	桑原弘美 介護教職員	認知症の発症と医療の在り方	認知症の進行期に備えたアドバンスケアプランニングについて学習する。		
5	桑原弘美 介護教職員	認知症と生きる上での認知症の理解	認知症の進行に応じた対応を学び、治療について学ぶ。		
6	桑原弘美 介護教職員	認知症を生きる当事者の思い	認知症を生きることの思い、不安、怒りなどの感情を知り関わり方の在り方を学習する。		
7	桑原弘美 介護教職員	認知症診断後の生活の変化に対応できる取り組み1	認知症への偏見や誤解に焦点を当て、当事者参画に関する取り組みについて学ぶ。		
8	桑原弘美 介護教職員	認知症診断後の生活の変化に対応できる取り組み2	認知症を社会課題として捉えた事例に焦点を当て、地域づくりの取り組みや仕掛けを紹介する。		
9	桑原弘美 介護教職員	公的制度による認知症のサポート	本人にとってより良い公的制度の利用の仕方、多職種連携とその課題について学ぶ。		
10	桑原弘美 介護教職員	認知症になっても不自由しない居場所づくり	様々な居場所の形を理解し、認知症を生きる人が輝く居場所の重要性を学習する。		
11	桑原弘美 介護教職員	ICTを取り入れた、認知症の進行に伴ったケアの実践	認知症ケアの場面でテクノロジーを活用する際の現在の課題について理解する。		
12	桑原弘美 介護教職員	認知症の医療介護連携から看取り事例	認知症の症状の返還を理解し、終末期像を捉える。		
13	桑原弘美 介護教職員	認知症の人に寄り添うための人材育成: 専門職	相手の立場に立ち、専門的アセスメントを発展させられるような取り組みを学ぶ。		
14	桑原弘美 介護教職員	認知症の人に寄り添うための人材育成: 地域住民	地域住民を含めた周囲の人々への意識啓発を含めた教育的な取り組みを学ぶ。		
15	桑原弘美 介護教職員	認知症をきっかけとした地域共生の展望	今後の超高齢社会での多世代を巻き込んだ地域共生について学ぶ。		

科目名	放送大学 I (地域社会の現状と課題)		担当講師	桑原 弘美・介護教職員	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「地域福祉の現状と課題」 放送大学教材				
参考書					
一般目標	介護福祉士として職務に必要な教養を身に着ける。放送大学の継続・卒業を目指す。				
学習方法	○講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
1	桑原 弘美 介護教職員	地域福祉を学ぶにあたって	生活の場である地域社会において、生活課題の解決を導く、地域福祉の定義を学ぶ。		
2	桑原 弘美 介護教職員	地域福祉の先駆け	方面委員長制度、共同募金、老人ホーム、児童養護施設などの先駆的活動や先人たちの思想や活動について学ぶ		
3	桑原 弘美 介護教職員	地域福祉の担い手 —ボランティア活動・福祉教育と専門職養成	地域福祉の担い手の共生を目指す新しい時代に向けての学び、対話、養成研修の必要性を学ぶ。		
4	桑原 弘美 介護教職員	地域福祉の実践に学ぶ —住民・市民活動	住民・市民活動の地域福祉における役割や意義について学ぶ。		
5	桑原 弘美 介護教職員	地域福祉の実践に学ぶ —社会福祉専門職の実践	社会福祉専門員の実践の現状と地域福祉における施設福祉の位置をケアの返還とともに学ぶ。		
6	桑原 弘美 介護教職員	小地域福祉活動とまちづくり	小地域福祉活動の目的、組織、活動の基本的理解を深める。		
7	桑原 弘美 介護教職員	災害と地域福祉	災害時のソーシャルワーカー、行政、市民・ボランティアの役割を学ぶ。		
8	桑原 弘美 介護教職員	中山間地と地域福祉	「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という住民の思いにこたえるための地域福祉の可能性と課題を考える。		
9	桑原 弘美 介護教職員	都市と地域福祉	都市でつながりを生み出すための地域福祉のあり方を考える。		
10	桑原 弘美 介護教職員	子供・家庭と地域福祉	家庭環境や地域社会の変化を踏まえ、子ども家庭支援における地域福祉の可能性を考える。		
11	桑原 弘美 介護教職員	地域包括支援とは何か	目指されるべき地域包括支援を地域福祉の視点で考察する。		
12	桑原 弘美 介護教職員	地域福祉計画と地域福祉活動計画—住民と行政のパートナーシップ	計画策定の意義や計画策定による効果を明らかにし、その課題と可能性を探る。		
13	桑原 弘美 介護教職員	新しい地域福祉の創造 ①当事者の参加と協働	「支援されるが側」と見なされがちの人々が地域福祉の担い手となり、地域を創り上げる地域福祉を実践するための方法と課題を考える。		
14	桑原 弘美 介護教職員	新しい地域福祉の創造 ②社会的企業という可能性	社会的企業の活動やその生み出す社会的価値について学び、地域福祉の新たな担い手としての可能性を考える。		
15	桑原 弘美 介護教職員	地域福祉の論点と展望	これからの地域福祉の展望を学ぶ		

科目名	日本語リテラシー I		担当講師	介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	日本語講師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 前期
教科書	「外国人のための会話で学ぼう！介護の日本語」 中央法規出版				
参考書	日本語レベルに応じて適宜紹介				
一般目標	日本語の文化・しきたりを交え、日本語の読み・書きを中心に日本語の習得を目指す。 (N3/N2以上 の2クラスに分かれ日本語能力検定合格を目指す)				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ ○その他(検定合格)				
	担当者	講義項目	行動目標		
1	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ①	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる①		
2	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ②	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる②		
3	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ③	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる③		
4	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ④	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる④		
5	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑤	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑤		
6	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑥	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑥		
7	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑦	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑦		
8	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑧	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑧		
9	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑨	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑨		
10	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑩	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑩		
11	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑪	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑪		
12	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑫	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑫		
13	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑬	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑬		
14	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑭	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑭		
15	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑮	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑮		

科目名	日本語リテラシーⅡ		担当講師	介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	日本語講師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第1学年 後期
教科書	「外国人のための会話で学ぼう！介護の日本語」中央法規出版				
参考書	日本語レベルに応じて適宜紹介				
一般目標	日本語の文化・しきたりを交え、日本語の読み・書きを中心に日本語の習得を目指す。 (N3/N2以上 の2クラスに分かれ日本語能力検定合格を目指す)				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ ○その他(検定合格)				

	担当者	講義項目	行動目標
1	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ①	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる①
2	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ②	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる②
3	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ③	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる③
4	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ④	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる④
5	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑤	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑤
6	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑥	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑥
7	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑦	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑦
8	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑧	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑧
9	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑨	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑨
10	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑩	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑩
11	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑪	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑪
12	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑫	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑫
13	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑬	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑬
14	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑭	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑭
15	荒井 生子 介護福祉科専任	日本語能力検定(N3、N2、N1)の合格に向けて学ぶ⑮	日本語能力検定N3、N2、N1のレベルに合わせ内容を理解し、日本語でコミュニケーションがとれる⑮

2023年度

2年生用シラバス

帯広コア専門学校

科目名	介護福祉とチームマネジメント		担当講師	石川 京子	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉士の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 後期
教科書	「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	資料 配布				
一般目標	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロアーシップなどチーム運営が理解できるようになる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
1	石川京子	介護サービスの特性と求められるマネジメント	介護サービスと他サービスとの相違点を学ぶ。		
2	石川京子	チームマネジメントの基本	チームマネジメントとは何か、チームマネジメントが求められる理由を学ぶ。		
3	石川京子	ケアを展開するために必要なチームとは何か	対人認知・集団		
4	石川京子	組織におけるコミュニケーション①	対人援助関係とコミュニケーション、組織における情報の流れ		
5	石川京子	組織におけるコミュニケーション②	集団討議(演習)		
6	石川京子	組織におけるコミュニケーション③	プレゼンテーション・ブレインストーミング(演習)		
7	石川京子	チームでケアを展開するためのマネジメント	情報共有とチームメンバーの相互関係		
8	石川京子	チームワークを最大限にするためのマネジメント	リーダーとフォロワーの役割		
9	石川京子	業務課題の発見と解決①	ケースメソッドによる学習(演習)		
10	石川京子	業務課題の発見と解決②	ケースメソッドによる学習(演習)		
11	石川京子	介護福祉職としてのキャリアデザイン	5年後の自分(演習)		
12	石川京子	介護福祉職のキャリア支援・開発	OJT		
13	石川京子	キャリア開発と自己研鑽	スーパービジョン		
14	石川京子	事業所組織の役割①	事業所目標達成のためのチームマネジメントPDC Aサイクル		
15	石川京子	事業所組織の役割②	地域連携、社会貢献		

科目名	ホスピタリティ		担当講師	林 佳奈子	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉士の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 後期
教科書	印刷資料を配布				
参考書	「マナー&プロトコルの基礎知識」NPO法人マナー&プロトコル協会				
一般目標	社会人としての常識・マナー、ビジネス知識のスキルを身につけ、心ある行動で信頼される介護福祉士を目指す				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他(ミニテスト)				
	担当者	講義項目	内容		
1	林 佳奈子	マナー&プロトコルについて	マナー&プロトコルについて		
2	林 佳奈子	マナーの歴史と意味	宗教を含めたマナーの歴史を学ぶ		
3	林 佳奈子	国際人としてのプロトコル	各国の文化と日本の文化の違い		
4	林 佳奈子	席次・紹介の仕方	来賓、来客、上司、部下などの席次と紹介の実際		
5	林 佳奈子	国旗の扱い	国際儀礼としての国旗の取扱い等を含めたマナーについて学ぶ		
6	林 佳奈子	社会人に必要なマナー	社会人に必要な基本的マナー項目を理解し、マナーの概要を学ぶ		
7	林 佳奈子	贈答のマナー 手紙のマナー	贈答のマナー、手紙のマナーを理解し、実際の状況で正しく行えるように学ぶ		
8	林 佳奈子	名刺交換と面接	社会人として大切な「名刺」の渡し方、受け取り方、管理の仕方等を学ぶ		
9	林 佳奈子	ビジネスマナー①	社会人としての心構え		
10	林 佳奈子	ビジネスマナー②	電話対応、携帯電話のマナーと実技		
11	林 佳奈子	ビジネスマナー③	ビジネスにおけるメールと社内外文書、FAXの使い方		
12	林 佳奈子	ビジネスマナー④	来客対応の実践、食事のマナー		
13	林 佳奈子	ビジネスマナー⑤	冠婚葬祭のマナー		
14	林 佳奈子	さまざま場面のマナー	祭りのしきたり		
15	林 佳奈子	マナー&プロトコルのまとめ	マナー&プロトコル及びビジネスマナーの基本のまとめ		

科目名	地域福祉		担当講師	桑原 弘美/介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉士の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	プリント配布				
参考書					
一般目標	地域連携を進める「地域福祉のコーディネーター」の視点を地域社会構成を理解した上で、がら地域の福祉のあり方、介護福祉士としての役割を学ぶ				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ その他(発表等)				
	担当者	講義項目	内容		
1	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域社会について学ぶ	地元・十勝の市町村について学ぶ		
2	桑原 弘美 介護福祉科専任	十勝・北海道・日本の理解	北海道と日本の福祉		
3	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域の歴史を知る①	帯広・十勝の歴史についてふれる(百年記念館)		
4	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域の歴史を知る②	アイヌの歴史、文化を知る(百年記念館)		
5	桑原 弘美 介護福祉科専任	人口減少社会と地域福祉	人口動態を調べ、地域の人口減少と問題について理解する		
6	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域福祉の対象と課題	地域福祉の思想・理論と現状の地域福祉の差異を整理する		
7	桑原 弘美 介護福祉科専任	福祉コミュニティの形成	地域の福祉コミュニティを調査し、福祉コミュニティの実際を知る		
8	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域福祉の政策と計画	地域福祉の政策と計画を理解する。		
9	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域福祉計画の住民参加と協働	地元・十勝の住民参加型と協働		
10	桑原 弘美 介護福祉科専任	過疎地域の福祉	過疎地域で生じている社会問題と考察		
11	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域ケアシステムの実際	地域ケアシステムのネットワーク		
12	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域ケアシステムの実際	介護支援専門員、地域包括支援システム		
13	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域ケアシステムの実際	福祉法人の取り組み(こども食堂、介護予防教室など)		
14	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域福祉の実践	地域の福祉イベントへの企画の提案と参画		
15	桑原 弘美 介護福祉科専任	地域福祉の実践	地域の福祉イベントの評価と考察		

科目名	家政学(住居)		担当講師 実務経験	浜野 祥一
実務経験分類	実務	実務内容	1級建築士の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。	

授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 後期
------	-----------	-----	-----	------	---------

教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第2版」中央法規出版				
参考書	随時 紹介				
一般目標	住居の必要性、生活環境整備の重要性、障害に応じた住環境の整備、生活環境と精神の関わり、在宅生活を支える住環境の整備、福祉用具の活用を学び福祉住環境コーディネーター3級を目指す				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ ○その他(ワークショップ)				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ ○提出物 ・ ○その他(レポート)				

	担当者	講義項目	内容
1	浜野 祥一	住まいの役割と機能	住まいの役割、構造について学ぶ
2	浜野 祥一	生活空間	生活空間の特徴について学ぶ
3	浜野 祥一	快適な室内環境	快適な室内環境について学び
4	浜野 祥一	安全に暮らすための生活環境	住宅政策、対策の動向について学ぶ
5	浜野 祥一	高齢者・障害者の住まい	高齢者・障害者の住宅の特徴と留意点
6	浜野 祥一	居住環境の整備における多職種との連携	高齢者・障害者の居住空間に関わる多職種連携
7	浜野 祥一	間取り設計演習	快適な居住空間の作り方①
8	浜野 祥一	間取り設計演習	快適な居住空間の作り方②
9	浜野 祥一	間取り設計演習	快適な居住空間の作り方③
10	浜野 祥一	間取り設計演習	快適な居住空間の作り方④
11	浜野 祥一	住宅改修設計演習	居住空間の紹介①(発表)
12	浜野 祥一	住宅改修設計演習	居住空間の紹介②(発表)
13	浜野 祥一	福祉住環境コーディネーターの知識 ①	福祉住環境コーディネーターの基本知識①
14	浜野 祥一	福祉住環境コーディネーターの知識 ②	福祉住環境コーディネーターの基本知識②
15	浜野 祥一	福祉用具の活用と課題	福祉用具と居住空間の工夫

科目名	家政学(被服)		担当講師	堀 比呂子
実務経験分類	実務	実務内容	服飾業界での実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる	
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第2版」中央法規			
参考書	随時紹介			
一般目標	人間の生活と被服の歴史、被服の重要性、衣生活の基礎知識、介護と衣生活の関 支援につなげることができる。			
学習方法	○講義 ・ 演習 ・ ○実習 ・ その他(
学習評価	○筆記試験 ・ ○出席状況 ・ 平常点 ・ ○提出物			

	担当者	講義項目	内 容
1	堀 比呂子	被服の機能	被服の機能、布ち針、基本的な技術
2	堀 比呂子	ユニバーサルファッションの制作①	裁縫の基本技術①
3	堀 比呂子	被服の素材	被服の素材と裁縫の技術
4	堀 比呂子	ユニバーサルファッションの制作②	裁縫の基本技術②
5	堀 比呂子	被服と衛生	被服の衛生管理について学ぶ
6	堀 比呂子	エコファッションの制作 1	裁縫の基本技術③
7	堀 比呂子	被服の選択と管理	季節、場面に応じた被服と管理、保管
8	堀 比呂子	エコファッションの制作 2	裁縫の基本技術④
9	堀 比呂子	高齢者・障害者の衣生活の特徴	高齢者・障害者に応じた衣生活の援助と
10	堀 比呂子	エコファッションの制作 3	裁縫の基本技術⑤
11	堀 比呂子	高齢者・障害者の服種別条件	高齢者・障害者の服種別の条件につ つなげる
12	堀 比呂子	エコファッションの制作 4	裁縫の基本技術⑥
13	堀 比呂子	各疾患とユニバーサルファッション	ユニバーサルファッションの基礎知
14	堀 比呂子	エコファッションの制作 5	裁縫の基本技術⑦
15	堀 比呂子	ユニバーサルファッションの発表	作品展示と裁縫技術の確認

ヒ呂子
。
第2学年 前期
去規出版
係の理解を深め、生活
)
の理解
旨
特徴
いて学び、自立支援に
識の理解

科目名	生活支援技術Ⅴ		担当講師	鳥宮 文・桑原弘美	
実務経験分類	実務	実務内容	健やかな生活に欠かせないリラクゼーションの提供や色覚特性の多様性の理解による生活環境の配慮に役立てる		

授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
------	-----------	-----	-----	------	---------

教科書	「色彩検定公式テキストUC級 文部科学省認後援2022改訂版」 色彩検定協会				
参考書	「タクティールケア入門 スウェーデン生まれの究極の癒し術」タクティールケア普及を考える会				
一般目標	あらゆる介護を必要としている人に対し、その人らしく生活するための環境をサポートし、自立支援・尊厳の観点からの生活支援を学習する。五感の中から特に嗅覚、触覚、視覚のシステムを学び、より良い生活へと導くアプローチを実践を通して学び習得する。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	鳥宮 文	オリエンテーション	講義のねらい及び五感を通しての心身の健康の意義について考える
2	鳥宮 文	アロマセラピー概論Ⅰ	嗅覚が心身に与える影響と実践を学ぶ
3	鳥宮 文	アロマセラピー概論Ⅱ	嗅覚が心身に与える影響と実践を学ぶ
4	鳥宮 文	トリートメント演習Ⅰ	タッチングの重要性と効果を演習を通して学ぶ(ハンドトリートメント)
5	鳥宮 文	トリートメント演習Ⅱ	タッチングの重要性と効果を演習を通して学ぶ(フットトリートメント)
6	鳥宮 文	トリートメント演習Ⅲ	タッチングの重要性と効果を演習を通して学ぶ(背面と疲労軽減の体の使い方)
7	鳥宮 文	色のユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの定義、位置づけについて
8	鳥宮 文	色の表し方	色を活用するための色彩表示、伝える方法を学ぶ
9	鳥宮 文	色が見える仕組み	色覚の多様性を理解するための準備
10	鳥宮 文	色覚タイプによる色見え方①	色覚のタイプ別による色見え方について
11	鳥宮 文	色覚タイプによる色見え方②	身近な環境にある色彩の配慮について(レポート準備)
12	鳥宮 文	高齢者の色見え方	高齢者の色見え方や日常生活における注意点、色の使い方の配慮を学ぶ
13	鳥宮 文	視覚情報に関わるユニバーサルデザイン	色のユニバーサルデザインやピクトグラムを学ぶ
14	鳥宮 文	色のユニバーサルデザインの進め方①	総合学習(デザインの設計と修正のポイントについて)
15	鳥宮 文	色のユニバーサルデザインの進め方②	総合学習(グループワーク、各テーマにおけるデザイン案の作成)

科目名	生活支援技術Ⅵ		担当講師	永野健児・桑原弘美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉士として業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することが出来る		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版」中央法規)				
一般目標	障害によって日常生活に支障がある人に対し、その人らしい生活を支援していくための適切且つ安全に援助できる知識と応用技術を習得する				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	永野 健児 ・桑原 弘美	利用者の状態・状況に応じた生活介護技術	障害や疾病のある人を支えるための介護福祉士の役割を学ぶ
2	・永野 健児 桑原 弘美	肢体不自由の理解	肢体不自由について医学的・心理的側面から理解する
3	・永野 健児 桑原 弘美	生活上での困りごと	肢体不自由のある人の日常生活上の困りごとを理解する
4	・永野 健児 桑原 弘美	肢体不自由に応じた生活支援の展開	肢体不自由のある人への支援において、多職種連携の中で介護福祉士が果たすべき役割を理解する
5	・永野 健児 桑原 弘美	肢体不自由に応じた生活支援の実際	肢体不自由の日常生活を支え、社会参加を促進するための支援と介助方法
6	・永野 健児 桑原 弘美	肢体不自由に応じた生活支援の実際	肢体不自由の日常生活を支え、社会参加を促進するための支援と介助方法
7	・永野 健児 桑原 弘美	肢体不自由に応じた生活支援の実際	肢体不自由の日常生活を支え、社会参加を促進するための支援と介助方法
8	永野 健児 ・桑原 弘美	視覚障害の理解	視覚障害について医学的・心理的側面から理解する
9	永野 健児 ・桑原 弘美	視覚障害に応じた介護技術の展開方法	視覚障害の日常生活を支え、社会参加を促進するための観察の視点や・介助方法を学ぶ
10	・永野 健児 桑原 弘美	聴覚・言語障害の理解	聴覚・言語障害について医学的・心理的側面から理解し、介護福祉士が果たすべき役割を理解する
11	・永野 健児 桑原 弘美	重複障害(盲ろう)の理解	重複障害(盲ろう)について医学的・心理的側面から理解し介護福祉士が果たすべき役割を理解する
12	永野 健児 ・桑原 弘美	内部障害の理解(心臓機能障害)	心臓機能障害について医学的・心理的側面から理解する
13	永野 健児 ・桑原 弘美	生活上の困りごと(観察の理解)	心臓機能障害の人の生活上の困りごとを理解する
14	永野 健児 ・桑原 弘美	支援の展開	心臓機能障害の人への支援において、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する
15	・永野 健児 桑原 弘美	内部障害の理解(呼吸器機能障害)	呼吸器機能障害について医学的・心理的側面から理解する

科目名	生活支援技術Ⅶ		担当講師	永野健児・桑原弘美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉士として業務を実践している教員が、わかりやすく細やかに対応することが出来る		

授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 後期
------	-----------	-----	-----	------	---------

教科書	「最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版」中央法規出版				
一般目標	介護を必要としている人がどのような状態になっても、その人らしく生きるための環境づくりを行い、自立支援・尊厳の保持の観点からの個別性のある生活支援を学習する。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	内容
1	永野 健児 ・桑原 弘美	内部障害の理解 (腎臓機能障害)	腎臓機能障害について医学的・心理的側面から理解する
2	永野 健児 ・桑原 弘美	生活上の困りごと (観察の理解)	腎臓機能障害の人の生活上の困りごとを理解する
3	永野 健児 ・桑原 弘美	支援の展開	腎臓機能障害の人への支援において、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する
4	永野 健児 ・桑原 弘美	内部障害の理解 (膀胱・直腸機能障害)	膀胱・直腸機能障害について医学的・心理的側面から理解する
5	永野 健児 ・桑原 弘美	生活上の困りごと (観察の理解)	膀胱・直腸機能障害の人の生活上の困りごとを理解する
6	永野 健児 ・桑原 弘美	支援の展開	膀胱・直腸機能障害の人への支援において、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する
7	永野 健児 ・桑原 弘美	内部障害の理解 (小腸機能障害)	小腸機能障害について医学的・心理的側面から理解する
8	永野 健児 ・桑原 弘美	生活上の困りごと (観察の理解)	小腸機能障害の人の生活上の困りごとを理解する
9	永野 健児 ・桑原 弘美	支援の展開	小腸機能障害の人への支援において、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する
10	永野 健児 ・桑原 弘美	HIV感染症の理解 (HIVによる免疫機能障害)	HIVによる免疫機能障害について医学的・心理的側面から理解し介護福祉士が果たすべき役割を理解する
11	永野 健児 ・桑原 弘美	生活上の困りごと (観察の理解)	HIVによる免疫機能障害の人の生活上の困りごとを理解する
12	永野 健児 ・桑原 弘美	支援の展開	HIVによる免疫機能障害の人への支援において、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する
13	永野 健児 ・桑原 弘美	内部障害の理解 (肝臓機能障害)	肝臓機能障害について医学的・心理的側面から理解する
14	永野 健児 ・桑原 弘美	生活上の困りごと (観察の理解)	肝臓機能障害の人の生活上の困りごとを理解する
15	永野 健児 ・桑原 弘美	支援の展開	肝臓機能障害の人への支援において、多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する

科目名	生活支援技術Ⅷ		担当講師	広島啓一・永野	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉士として業務を実践している教員が、わかりや ことが出来る		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版」中央				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版」中				
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害によって日常生活に支障のある人に対し、その人らしい生活を支援して 全に援助できる知識と応用技術を習得する ・応急処置・緊急時対応を学ぶ 				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他(
学習評価	○実技試験 並びに 筆記試験 ・ 平常点 ・ 提出物 ・ その				
	担当者	講義項目	内容		
1	・永野 健児 桑原 弘美	重症心身障害の理解	重症心身障害について医学的・心理 介護福祉士が果たすべき役割を理解す		
2	・広島 啓一 桑原 弘美	知的障害の理解	知的障害について医学的・心理的側		
3	・広島 啓一 桑原 弘美	生活上での困りごと・ 支援の展開	知的障害の日常生活を支え、社会参 観察の視点や展開方法を学ぶ		
4	・永野 健児 桑原 弘美	精神障害の理解	精神障害について医学的・心理的側 祉士が果たすべき役割を理解する		
5	・永野 健児 桑原 弘美	高次脳機能障害の理解	高次脳機能障害について医学的・心 介護福祉士が果たすべき役割を理解		
6	・広島 啓一 桑原 弘美	発達障害の理解	発達障害について医学的・心理的側		
7	・広島 啓一 桑原 弘美	生活上での困りごと・ 支援の展開	発達障害の日常生活を支え、社会参 観察の視点や展開方法を学ぶ		
8	・永野 健児 桑原 弘美	難病の理解 (筋萎縮性側索硬化症病)	難病について医学的・心理的側面か		
9	・永野 健児 桑原 弘美	支援の展開	難病の人への支援において、多職種 祉士が果たすべき役割を理解する		
10	・永野 健児 桑原 弘美	難病の理解 (パーキンソン病)	難病について医学的・心理的側面か 進するための観察の視点や展開方法		
11	・永野 健児 桑原 弘美	難病の理解 (悪性関節リウマチ)	難病について医学的・心理的側面か 進するための観察の視点や展開方法		
12	・永野 健児 桑原 弘美	難病の理解 (筋ジストロフィー)	難病について医学的・心理的側面か 進するための観察の視点や展開方法		
13	桑原 弘美	事例検討	事例を検討し、支援方法を考え介助:		
14	桑原 弘美	事例検討	事例を検討し、支援方法を考え介助:		
15	桑原 弘美	事例検討	事例を検討し、支援方法を考え介助:		

健児・桑原弘美
すく細やかに対応する
第2学年 後期
法規出版
中央法規出版
こいくための適切かつ安
)
他()
的側面から理解し、介
する
面から理解する
加を促進するための
面から理解し、介護福
理的側面から理解し、
解する
面から理解する
加を促進するための
ら理解する
連携のなかで介護福
ら理解し社会参加を促
去を学ぶ
ら理解し社会参加を促
去を学ぶ
ら理解し社会参加を促
去を学ぶ
技術を学ぶ
技術を学ぶ
技術を学ぶ

科目名	介護過程Ⅲ		担当講師	畠山 晴美・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・福祉業務経験を活かした教員がわかりやすく、細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年前期
教科書	「最新 介護福祉養成講座 9 介護過程 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	個別介護事例を通して、利用者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画の関係性、チームとして介護過程を展開できる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ ○実習 ・ その他()				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ その他(発表)				
	担当者	講義項目	内容		
1	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の発表①	ケーススタディの発表を行い、さまざまな個別介護計画方法について理解する。		
2	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の評価・分析	ケース利用者への介護計画の評価を行い展望を発見できる		
3	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の再アセスメント①	再度、ケース利用者の追加情報内容を整理し、生活像を理解してニーズを発見できる		
4	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の再アセスメント②	安全の視点、自立の視点、快適の視点から情報を整理し、再度生活課題を抽出できる		
5	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の介護計画の再立案①	生活ニーズに沿った目標の再設定と実施内容について整理する		
6	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の介護計画の再立案②	生活ニーズに沿った介護実践内容について発見でき、計画として明記できる		
7	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケース利用者の介護計画の再立案③	利用者の状況や状態に応じた介護実践内容を計画できる。		
8	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディⅡの作成①	介護実習Ⅲのケーススタディの情報を整理する		
9	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディⅡの作成②	介護実習Ⅲのケーススタディの必要情報についてまとめる		
10	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディⅡの作成③	介護実習Ⅲのケーススタディのアセスメント・介護計画の連動性を確認する(チームアプローチ)		
11	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディⅡの作成④	介護実習Ⅲのケーススタディの実践内容とケース利用者の状況・状態の変化等についてまとめる		
12	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディⅡの作成⑤	介護実習Ⅲのケーススタディの実践についての評価をまとめ展望を発見できる		
13	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディⅡの作成②	実習Ⅲのケーススタディの発表原稿を作成する		
14	畠山 晴美 介護福祉科専任	ケーススタディⅡの発表	実習Ⅲのケーススタディを発表し、さまざまな事例について理解する		
15	畠山 晴美 介護福祉科専任	介護過程・ケアマネジメントのまとめ	個別介護計画とケアプランの連動性を理解し、利用者の生活課題解決方法について理解する。		

科目名	介護福祉研究 I		担当講師	畠山 晴美 ・ 介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・医療の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	印刷資料を配布				
参考書	適宜紹介				
一般目標	経験科学としての介護福祉に取り組めるよう研究的思考を培う。また、学会等で発表ができるように基本的な論述を身につける。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
1	畠山晴美 介護福祉科専任	ケーススタディの目的・論文	ケーススタディの論文作成の意義を理解し、研究について学ぶ		
2	畠山晴美 介護福祉科専任	ケーススタディ(論文)の書き方	他の論文と比較検討し、経験研究の構成と書式と書き方、マナーについて理解する		
3	畠山晴美 介護福祉科専任	ケーススタディ(論文)の構成	ケーススタディを論文として構成化する。		
4	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成①	研究目的を明らかにする		
5	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成②	研究事例を整理する①		
6	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成③	研究事例を整理する②		
7	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成④	研究事例の考察と分析①		
8	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成⑤	研究事例の考察と分析②		
9	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成⑥	研究事例の考察と分析③		
10	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成⑦	研究事例の考察と分析④		
11	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成⑧	研究事例の考察と分析⑤		
12	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成⑨	研究事例のまとめ		
13	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の作成⑩	研究事例の謝辞		
14	畠山晴美 介護福祉科専任	中間発表	研究事例の中間発表①		
15	畠山晴美 介護福祉科専任	中間発表	研究事例の中間発表②		

科目名	介護福祉研究Ⅱ		担当講師	畠山 晴美 ・ 介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・医療の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 後期
教科書	印刷資料を配布				
参考書	適宜紹介				
一般目標	論文(研究事例)の修正と追加、発表までの準備と発表方法と留意点について学ぶ、更に、視聴者としての質疑応答のマナーについても理解を深める				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	平常点 ・ ○提出物 ・ その他(発表)				
	担当者	講義項目	内容		
1	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の修正①	事例研究の中間発表で論文としての差異を明らかに修正する①		
2	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の修正②	事例研究の中間発表で論文としての差異を明らかに修正する②		
3	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の修正③	事例研究の中間発表で論文としての差異を明らかに修正する③		
4	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の修正④	事例研究の中間発表で論文としての差異を明らかに修正する④		
5	畠山晴美 介護福祉科専任	論文の更生と確認	最終的な確認を行い論文を作り上げる。		
6	畠山晴美 介護福祉科専任	発表の仕方とマナー	発表する事の目的、研究的視点、質疑応答の準備について学ぶ		
7	畠山晴美 介護福祉科専任	発表資料の作成①	研究成果がわかりやすい発表資料の作成を考える		
8	畠山晴美 介護福祉科専任	発表資料の作成②	研究発表資料の整理①		
9	畠山晴美 介護福祉科専任	発表資料の作成③	研究発表資料の整理②		
10	畠山晴美 介護福祉科専任	発表資料の中間発表	研究発表資料の中間確認		
11	畠山晴美 介護福祉科専任	発表資料の作成④	研究発表資料の修正と発表方法の工夫①		
12	畠山晴美 介護福祉科専任	発表資料の作成⑤	研究発表資料の修正と発表方法の工夫②		
13	畠山晴美 介護福祉科専任	発表原稿の作成	発表時間内に終わる発表の技術と工夫①		
14	畠山晴美 介護福祉科専任	発表原稿の作成	発表時間内に終わる発表の技術と工夫①		
15	畠山晴美 介護福祉科専任	論文発表	発表時間内に論文を発表する		

科目名	介護総合演習Ⅳ		担当講師	菅原悦子・介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護・看護の経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	「2022年度改訂版 介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校 「2022年版 学生用介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版」 中央法規出版				
一般目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を態度を養う学習とする。				
学習方法	講義 演習				
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ その他(発表)				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原悦子 介護福祉科専任	介護実習Ⅲについて	介護実習Ⅲの目的 スケジュール
2	菅原悦子 介護福祉科専任	介護実習Ⅲについて	介護実習Ⅲの記録について
3	菅原悦子 介護福祉科専任	介護実習Ⅲ 課題	課題・調書について
4	菅原悦子 介護福祉科専任	介護実習Ⅲ	提出書類について
5	菅原悦子 介護福祉科専任	グループ・スーパービジョン	各個人の体験の共有を行う。
6	菅原悦子 介護福祉科専任	グループ・スーパービジョン	各個人の体験の共有を行う。
7	菅原悦子 介護福祉科専任	グループ・スーパービジョン	全体でのまとめ
8	菅原悦子 介護福祉科専任	ケーススタディ	介護実習Ⅲのケーススタディをまとめる
9	菅原悦子 介護福祉科専任	ケーススタディ	介護実習Ⅲのケーススタディをまとめる
10	菅原悦子 介護福祉科専任	ケーススタディ	介護実習Ⅲのケーススタディをまとめる
11	菅原悦子 介護福祉科専任	ケーススタディ	介護実習Ⅲのケーススタディをまとめる
12	菅原悦子 介護福祉科専任	事例検討発表会	事例検討発表会の準備と実施
13	菅原悦子 介護福祉科専任	事例検討発表会	各個人の事例の発表と、学びを深めるための質疑応答を行う。
14	菅原悦子 介護福祉科専任	事例検討発表会	各個人の事例の発表と、学びを深めるための質疑応答を行う。
15	菅原悦子 介護福祉科専任	事例検討発表会	各個人の事例の発表と、学びを深めるための質疑応答を行う。

科目名	介護実習Ⅲ		担当講師	介護福祉科専任	
実務経験分類	実務	実務内容	介護・看護の経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	200	単位数	5単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	「改訂版 介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校 「学生用介護実習マニュアル」 帯広コア専門学校				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版」 中央法規出版				
一般目標	1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 3. 利用者へのサービスの全体像を理解し、チームの一員として行動できる能力を養う。 4. 受け持ち利用者の介護計画を立案、実践、評価し、再計画する。(PDCA)				
学習方法	講義 ・ 演習 ・ ○実習 ・ ○その他(カンファレンス)				
学習評価	平常点 ・ 提出物 ・ その他()				

	担当者	講義項目	行動目標
1～5	介護福祉科専任教員	施設介護全般に参加し、利用者の個別性に応じた日常生活援助ができる。	援助方法については実習ⅠⅡにの内容に準じる。 ①福祉用具の使用場面に参加し、機器の保守点検や個別使用の工夫を行う。 ②福祉用具と自立支援の関連性を学ぶ。 ③ケースカンファレンスに参加する。 ④日常業務全般へ参加し、役割分担の必要性を学ぶ。 ⑤受け持ち利用者の決定。
6～10	介護福祉科専任教員	受け持ち利用者の介護計画を立案する。	①受け持ち利用者を通して情報収集・アセスメントを行う。 ②入所者の把握をする。 ③「解決すべき課題」を明らかにする目標設定をする。 ④「解決すべき課題」の優先順位をつける。 ⑤目標に対する具体的な援助方法を計画する。 ⑥カンファレンスを通して他の参加者と意見交換をする。
10～15	介護福祉科専任教員	受け持ち利用者の介護計画を立案する。	①受け持ち利用者を通して情報収集・アセスメントを行う。 ②入所者の把握をする。 ③「解決すべき課題」を明らかにする目標設定をする。 ④「解決すべき課題」の優先順位をつける。 ⑤目標に対する具体的な援助方法を計画する。 ⑥カンファレンスを通して他の参加者と意見交換をする。 ⑦介護者としての自己の傾向を知る。
16～20	介護福祉科専任教員	チームの一員としての意識が持てる。	①関連職種の業務見学。 ②関連職種の業務に参加する。 ③ケアプラン作成の実際を学ぶ。 ④夜間の介護体験を行い、利用者の1日を通して理解する。
21～25	介護福祉科専任教員	介護福祉士としての倫理性について考えることができる。	①自己の援助行為を常に振り返り、利用者の反応を観察し、その状況を科学的根拠に基づいて理解できる。 ②利用者や家族とのかかわりの中から専門職としての人権尊重について考える。 ③カンファレンス等で利用者や家族とのかかわり方で悩みなどを参加者との意見交換をする。

科目名	リハビリテーション論		担当講師	小岩 幹 ・ 高橋 良輔	
実務経験分類	実務	実務内容	理学療法士の経験を活かし、わかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	印刷資料を配布				
参考書	随時紹介				
一般目標	リハビリテーションの理念や定義、各種のリハビリテーションの基本的な知識や技術を学び、リハビリテーション介護の基本的実践ができるようになる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○筆記試験 ・ ○平常点 ・ 提出物 ・ その他(出席状況)				
	担当者	講義項目	内 容		
1	高橋	リハビリテーションの理念/目的	リハビリテーションの理念/目的について学ぶ		
2	高橋	リハビリテーションの範囲/対象	リハビリテーションの範囲/対象について学ぶ		
3	高橋	障害の概念/ADLとQOL	障害の概念/ADLとQOLについて学ぶ		
4	高橋	福祉用具と住宅改修 介護福祉士の役割	福祉用具の種類や住宅改修、介護福祉士の役割について学ぶ		
5	小岩	リハビリテーションの組織	リハビリテーションの組織について学ぶ		
6	小岩	リハビリテーションの方法 各論1-1	脳卒中のリハビリテーションについて学ぶ1		
7	小岩	リハビリテーションの方法 各論1-2	脳卒中のリハビリテーションについて学ぶ2		
8	小岩	リハビリテーションの方法 各論1-3	脳卒中のリハビリテーションについて学ぶ3		
9	小岩	リハビリテーションの方法 各論2	認知症のリハビリテーションについて学ぶ		
10	小岩	リハビリテーションの方法 各論3	虚弱高齢者のリハビリテーションについて学ぶ		
11	高橋	リハビリテーション医療の流れ	リハビリテーション医療の流れについて学ぶ		
12	高橋	最新のリハビリテーション医療	最新のリハビリテーション医療について学ぶ		
13	高橋	施設における リハビリテーション	施設におけるリハビリテーションについて学ぶ		
14	高橋	地域における リハビリテーション	地域におけるリハビリテーションについて学ぶ		
15	小岩	まとめ	全体のまとめ、復習を行う		

科目名	発達と老化の理解 I		担当講師	菅原 悦子	
実務経験分類	実務	実務内容	看護師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 後期
教科書	「最新 介護福祉養成講座 12 発達と老化の理解 第2版」 中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	1. 人間の成長と発達過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を理解し説明できる。				
学習方法	講義 ・ グループワーク				
学習評価	単位認定試験 平常点				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原 悦子	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康について理解する。
2	菅原 悦子	↓	高齢者に多い症状・疾患の特徴を理解する。
3	菅原 悦子	高齢者に多い症状と疾患と生活上の留意点	高齢者の症状 疾患の特徴、老年症候群について理解し説明できる。
4	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 脳・神経系
5	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 骨格系 筋系 感覚器系
6	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 循環器系
7	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 呼吸器系
8	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 消化器系 腎・泌尿器系
9	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 口腔疾患
10	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 口腔疾患
11	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 悪性新生物
12	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 精神疾患
13	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 感染症
14	菅原 悦子	↓	高齢者に多い代表的な疾患を理解する。 その他
15	菅原 悦子	保健医療職との連携	保健医療職との連携の必要性について理解する。

科目名	発達と老化の理解Ⅱ		担当講師	菅原 悦子	
実務経験分類	実務	実務内容	看護師の経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	「最新 介護福祉養成講座 12 発達と老化の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	随時紹介				
一般目標	1. 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を理解し説明できる。				
学習方法	講義 グループワーク				
学習評価	単位認定試験 平常点				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原 悦子	人間の成長と発達の基礎的知識	人間の成長と発達について理解し説明できる。発達と成長について
2	菅原 悦子	人間の成長と発達の基礎的知識	人間の成長と発達について理解し説明できる。発達と成長について 影響する因子
3	菅原 悦子	人間の発達と発達課題	発達理論について理解する。
4	菅原 悦子	人間の発達と発達課題	発達理論について理解する。
5	菅原 悦子	人間の発達と発達課題	身体的機能の成長と発達を理解し説明できる。
6	菅原 悦子	人間の発達と発達課題	心理的機能の発達について理解する。
7	菅原 悦子	人間の発達と発達課題	心理的機能の発達について理解する。
8	菅原 悦子	人間の発達と発達課題	社会的性の発達について理解する。
9	菅原 悦子	人間の発達と発達課題	社会的性の発達について理解する。
10	菅原 悦子	老年期の特徴と発達課題	老年期に関する知識を理解し説明できる。WHOの定義 社会福祉法について
11	菅原 悦子	老年期の特徴と発達課題	老年期に関する知識を理解し説明できる。老化の特徴 加齢と老化について
12	菅原 悦子	老年期の特徴と発達課題	老年期に関する知識を理解し説明できる。老化学説について
13	菅原 悦子	老年期の特徴と発達課題	老年期に関する知識を理解し説明できる。老年期の発達課題
14	菅原 悦子	老年期の特徴と発達課題	老年期に関する知識を理解し説明できる。老化に伴う身体的変化・心理的変化・社会的変化について理解する
15	菅原 悦子	老年期の特徴と発達課題	老年期に関する知識を理解し説明できる。老年期をめぐる課題

	認知症の理解Ⅱ		担当講師	横山 麻悠美	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉士の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 後期
教科書	「最新 介護福祉養成講座 13 認知症の理解 第2版」中央法規出版				
参考書	プリント配布				
一般目標	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心にそなえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解できる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他()				
学習評価	○ 筆記試験 ・ 平常点 ・ ○提出物 ・ その他()				
	担当者	講義項目	内容		
1	横山 麻悠美	認知症の人の心理	認知症の人の思い、認知症が及ぼす心理的影響		
2	横山 麻悠美	認知症の人の心理	認知症のある人の特徴的なこころの理解		
3	横山 麻悠美	認知症に伴う生活への影響	認知症の人の生活上の障害、コミュニケーションの障害、社会とのかかわりの障害		
4	横山 麻悠美	認知症ケアの実際①	本人主体のケア(意思決定支援)		
5	横山 麻悠美	認知症ケアの実際②	パーソンセンタード・ケアとは		
6	横山 麻悠美	認知症ケアの実際③	パーソンセンタードケアに基づいた実践		
7	横山 麻悠美	認知症ケアの実際④	認知症の特性をふまえたアセスメント(センター方式、ひもときシート)		
8	横山 麻悠美	認知症ケアの実際⑤	認知症の人とのコミュニケーション(演習)		
9	横山 麻悠美	認知症ケアの実際⑥	認知症の人への生活支援(演習)		
10	横山 麻悠美	認知症の人へのさまざまな関わり	リアリティオリエンテーション、回想法、音楽療法、バリデーション療法		
11	横山 麻悠美	地域におけるサポート体制	地域包括支援センターの役割と機能、ボランティアや認知症サポーターの役割		
12	横山 麻悠美	多職種連携と協働	認知症の人が安心して暮らせるためチームなどについて学ぶ。		
13	横山 麻悠美	認知症の人を介護する家族の状況	認知症の人を介護する家族の実態、家族の身体的、心理的、社会的負担		
14	横山 麻悠美	家族への支援	家族へのレスパイトケア		
15	横山 麻悠美	家族への支援	家族のエンパワメント、家族会		

科目名	障害の理解Ⅱ		担当講師	東貴志・水口拓也	
実務経験分類	実務	実務内容	介護福祉・福祉の実務経験を活かしわかりやすく細やか		
授業時間	30時間(15回)	単位数	2単位	履修時期	
教科書	プリント配布				
参考書	「最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版」中				
一般目標	聴覚障害や視覚障害者のコミュニケーション手段(手話・点字)を学び、生活				
学習方法	○講義 ・ ○演習 ・ 実習 ・ その他(
学習評価	○平常点 ・ ○提出物 ・ その他(出席状況)				
	担当者	講義項目	内容		
1	東 貴志	聴覚障害について	聴覚障害、聴覚障害者の歴史		
2	東 貴志	聴覚障害者の言語	聴覚障害者のコミュニケーション、指		
3	水口 拓也	手話でコミュニケーション①	手話という言語の成り立ちと日常会話		
4	水口 拓也	手話でコミュニケーション②	手話で自己紹介ができる		
5	水口 拓也	手話でコミュニケーション③	地名・動物など日常にでてくる単語を		
6	水口 拓也	手話でコミュニケーション④	外出、通院時、困った時に必要な		
7	水口 拓也	手話でコミュニケーション⑤	外出、通院時、困ったときに必要		
8	水口 拓也	手話でコミュニケーション⑥	聴覚障害者と手話について理解		
9	介護専任	障害の理解と障害者の暮らし①	重複障害や肢体不自由について学		
10	介護専任	障害の理解と障害者の暮らし②	重複障害や肢体不自由について学		
11	介護専任	視覚障害の基礎知識	視覚障害について学び、視覚障害者		
12	介護専任	視覚障害者の生活を考える①	視覚障害者の疑似体験を通して、視		
13	介護専任	視覚障害者の生活を考える②	視覚障害者歩行介助を行い、視覚障		
14	南部 慶太	点字の実際①	点字の歴史、概要を学び点字の仕組		
15	南部 慶太	点字の実際②	点字で自己紹介、日常生活の言葉を		

・南部慶太/介護専任

に対応することができる。

第2学年 後期

中央法規出版

支援につなげる。

)

)

文字

話を学ぶ

手話でできる

な会話が手話でできる①

な会話が手話でできる②

し、手話を適切に使える

ぶ、障害者の生活を考える

ぶ、障害者の生活とノーマラ

の生活の特徴を理解する。

覚障害の生活の特徴を理

害者介助の特徴と留意点

組みについて理解する

理解し実践できる

科目名	医療的ケアⅡ		担当講師	菅原 悦子・山田 康子	
実務経験分類	実務	実務内容	看護師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	30時間(18回以上)	単位数	2単位	履修時期	第2学年 前期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	1. 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 2. 喀痰吸引を実施するための基礎的知識・実施手順方法を理解し説明できる。				
学習方法	○講義 ・ ○演習				
学習評価	筆記試験 ・ 平常点				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原 悦子	喀痰吸引概論	喀痰吸引の基礎知識を理解する。 呼吸のしくみ
2	菅原 悦子		喀痰吸引の基礎知識を理解する。 喀痰吸引とは 喀痰吸引が必要な状況とは
3	菅原 悦子		喀痰吸引の基礎知識を理解する。 人工呼吸器と吸引 子どもの吸引
4	菅原 悦子		喀痰吸引の基礎知識を理解する。 感染と予防
5	菅原 悦子		喀痰吸引の基礎知識を理解する。 喀痰吸引に伴うケア 家族支援について
6	菅原 悦子		喀痰吸引の基礎知識を理解する。 喀痰吸引により生じる危険と安全確認 急変・事故
7	菅原 悦子	喀痰吸引の実施手順	喀痰吸引実施手順の説明
8	菅原 悦子		喀痰吸引実施手順の説明
9	菅原 悦子	経管栄養概論	経管栄養の基礎知識を理解する。 消化器系のしくみとはたらき
10	菅原 悦子		経管栄養の基礎知識を理解する。 経管栄養が必要な状態と観察のポイント 経管栄養実施上の留意点 利用者や家族の気持ち
11	菅原 悦子		経管栄養の基礎知識を理解する。 経管栄養により生じる危険と安全確認
12	菅原 悦子		経管栄養の基礎知識を理解する。 子どもの経管栄養 経管栄養に伴うケア 家族支援
13	菅原 悦子		経管栄養の基礎知識を理解する。 経管栄養で用いる器具・機材とその仕組み 清潔
14	菅原 悦子	経管栄養の手順解説	経管栄養の基礎知識を理解する。 経管栄養の手順(経鼻経管栄養)
15	菅原 悦子		経管栄養の基礎知識を理解する。 経管栄養の手順(胃ろう経管栄養)
16	菅原 悦子	救急蘇生法	救急蘇生法に関する基礎知識を理解する。
17	菅原 悦子		救急蘇生法に関する基礎知識を理解する。
18	菅原 悦子		救急蘇生法に関する基礎知識を理解する。

科目名	医療的ケアⅢ		担当講師	菅原 悦子・山田 康子	
実務経験分類	実務	実務内容	看護師の実務経験を活かしわかりやすく細やかに対応することができる。		
授業時間	15時間(8回)以上	単位数	1単位	履修時期	第2学年 後期
教科書	「最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 第2版」中央法規出版				
参考書					
一般目標	1. 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 2. 経管栄養を実施するための基礎的知識・実施手順方法を理解し説明できる。				
学習方法	・講義・演習				
学習評価	演習評価				

	担当者	講義項目	行動目標
1	菅原 悦子 山田 康子	喀痰吸引 演習	口腔内喀痰吸引 鼻腔内吸引 気管カニューレ内部の吸引(シュミレーターによる演習) 規定回数
2	菅原 悦子 山田 康子	喀痰吸引 演習	口腔内喀痰吸引 鼻腔内吸引 気管カニューレ内部の吸引(シュミレーターによる演習) 規定回数
3	菅原 悦子 山田 康子	喀痰吸引 演習	口腔内喀痰吸引 鼻腔内吸引 気管カニューレ内部の吸引(シュミレーターによる演習) 規定回数
4	菅原 悦子 山田 康子	喀痰吸引 演習	口腔内喀痰吸引 鼻腔内吸引 気管カニューレ内部の吸引(シュミレーターによる演習) 規定回数
5	菅原 悦子 山田 康子	経管栄養 演習	経鼻経管栄養 胃ろうによる経管栄養(シュミレーターによる演習) 規定回数
6	菅原 悦子 山田 康子	経管栄養 演習	経鼻経管栄養 胃ろうによる経管栄養(シュミレーターによる演習) 規定回数
7	菅原 悦子 山田 康子	経管栄養 演習	経鼻経管栄養 胃ろうによる経管栄養(シュミレーターによる演習) 規定回数
8	菅原 悦子 山田 康子	経管栄養 演習	経鼻経管栄養 胃ろうによる経管栄養(シュミレーターによる演習) 規定回数
9	菅原 悦子 山田 康子	救急蘇生	救急蘇生 実技
10			
11			
12			
13			
14			
15			